



人にやさしいモールづくり、地域貢献、環境保全への継続的な取り組み

つなげたい想いを、かたちに



イオンモール株式会社

つどう「ひと」、つどう「まち」。 未来のために

イオンモールで働く従業員(以下「社員」といいます)は、 地域に根ざし、地域とともにいきいきと成長できることをめざし活動しています。 しかし今、海外へも拠点を広げる中で、世界各地でも「地域」の暮らしや そこに住む人々のために活動しなければならないのではないか、と改めて考えています。

私たちは常に、地域社会と世界、そこに暮らす人々とともにいきいきとありたいと考えています。 そこに集う「ひと」がみな平等な未来を迎えるためには、 あらゆることに常に真摯に取り組む姿勢、"品格" ある行動が必要です。

地球や社会、「まち」が良い未来を迎えるために、

地域社会や、お客さまをはじめ、テナントさまやその従業員 (「テナント従業員」 といいます) に対しても、 きちんとやるべきこと、進むべき指針を常に啓発し、共有しなければなりません。

簡単に解決できない困難な課題や、手間のかかることも数多くあるでしょう。

一つずつ解決することで必ず将来、ともに良い方向に進むことができる。

私たち社員は、そんな"志"を、イオンモールを取り巻くすべての人々とともに育んでいきたいと考えています。

そして、がんばっている人たちをきちんと評価し、 さらに高い目標へとともに歩んでいく、企業としての"志"も大切にしていきます。

私たちは、「ひと」を、「まち」を、未来を信じて、進んでいきます。 "志"を実現するため、私たちは"品格"ある行動をめざします。



イオンの基本理念

イオンは「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」 という不変の理念を堅持し、その具現化のための行動指針である「イオン宣言」を胸に、 「お客さま第一」を実践してまいります。



イオン宣言

イオンは、日々のいのちとくらしを、開かれたこころと活力ある行動で、「夢のある来未」(ÆON)に変えていきます。

イオンについて

イオンは13の事業をもつ純粋持ち株会社体制をとる、日本最大の小売業グループです。 イオンモールはその中核として、ディベロッパー事業を担っています。



イオンモールの理念

基本理念

お客さま第一

経営理念

イオンモールは、「輝きのあるまちづくり」を目指します。

私たちは、パートナーとともに、輝きのあるまちを創造し、地域で生活する人々の、 より彩りあるくらしの実現に貢献し続けます。

輝きのあるまちとは

私たちが創る「驚き、感動、喜び」のある生活拠点によって 魅力あふれる新しい生活があるまちのことを指します。

パートナーとは

地域社会、行政、NPO、テナント企業、協力企業、地権者、投資家など、 まちづくりにかかわるすべての人を指します。

コーポレート・メッセージ



ひとも、まちも、きらきら。

CONTENTS

- 2 トップメッセージ
- 4 イオンモールの概況
- 6 特集

一人ひとりが、未来を考える イオンモール社員と役員の座談会

2 0 0 9 年 度 の 活 動 報 告

12 「ひと」とともに、「まち」とともに

地域とお客さまのために

- りョッピングモールが 地域にもたらす価値と負荷の認識
- 毎全で、快適な ショッピングモールをめざして
- 18 コミュニティの中心として 機能するショッピングモール

従業員とともに

- (20) イオンモールの基盤を支える 社員の働きやすさのために
- イオンモールの成長の原動力である テナントさまをはじめとするバートナーさまのために

環境への取り組み

- 24 ショッピングモールにおける環境への取り組み
- 23 イオンモールの環境負荷把握と環境活動への取り組み

未来に向けた取り組みの芽

- 32 海外展開
- 34 新しいビジネスの展開
- 35 イオンモールの沿革
- 36 SR会計報告
- 37 第三者意見
- 38 各ショッピングモールの2009年度データー覧

編集方針

この報告書は、イオンモール株式会社が果たすべき社会的責任の目標と実績、今後の課題について報告を行っています。「特集」では、イオンモールの現状を振り返り今後を見据えるために開催したイオンモール役員・社員の座談会をレポートします。報告パートは、「地域とお客さま」「従業員」「環境」に対するイオンモールの取り組みをそれぞれまとめました。

報告対象期間

2009年2月21日~2010年2月20日 (対象期間外の情報に関しては、その都度表記しています)

本レポート内での表現について

イオン: イオン株式会社を中核とするイオングループ全体を指します イオンモール: イオンモール株式会社を指します モール: イオンモール株式会社が開発・管理運営を行うショッピング モールを指します



「ひと」を核に、持続可能な ショッピングモールづくりをめざします

「ひと」を原動力に 「集客力」を生み出す

2009年度の経済は先行きの不透明感からお客さまの消費行動にも影響が見られ、私たちのモールにご出店いただくテナントさまを含め小売業界全体にとって厳しい一年となりました。しかしイオンモールは商業専業ディベロッパーとして確かな成長があったという実感があります。新しいモールのオープンや既存モールの活性化といった施策が功を奏したことも、すべては何よりもイオンモールが「お客さま」を大切にしてきた成果です。

モールの開発から運営には、ノウハウだけでなく地域の皆さまのご理解が不可欠です。「ひと」を大切に思い、「ひと」を取り巻く場所でビジネスを行うという意識が浸透してはじめて、地域に根ざしたモールをつくることができるのです。そしてそれがお客さまのご来店につながるという信念を、私たちは持ち続けてきました。これこそが、まさしく持続可能な社会の実現そのものなのであり、企業の存続そのものも問われるのです。

モールはショッピングだけではなく、地域に雇用と経済効果を生む機能も併せ持ちます。お客さまもテナントさまで働く従業員も地域に暮らすという環境で、いかにニーズをくみ取り、魅力と元気にあふれる場を提供できるか。そのノウハウと実践が、イオンモールの成長を支える原動力であると考えています。

こうした考え方は、海外で事業を行うと きにも忘れてはなりません。2008年11 月に中国に初めて「イオン北京国際商城 ショッピングセンター」がオープンし、約1年半が過ぎました。それまで中国には存在しなかった郊外型モールビジネスを導入し、またイオンの中国展開としてはじめてシネマコンプレックスを開店、平面駐車場も広くとるなど、新しい魅力とショッピング空間を提案しました。マーケットの成長性に支えられたこともあり、1号店は好調に推移しています。

2010年秋には天津に2号店のオープンが決定、またベトナムにも事業所を開きました。これらの新しい動きの中でも、1号店で得たノウハウを活かし、期待に応えられるモールづくりを進めていきます。

▶ 地域の皆さまと手を携えて▶ 環境と安全を守る

環境活動でも蓄積したノウハウを活かす取り組みを進めています。CO2排出量を低減するために、モール改装時に省エネ設備を導入するなどのハード面から、従業員が環境を意識し、日常の行動から変える教育といったソフト面まで、さまざまな活動を積み上げてきました。

環境活動はイメージづくりのためではなく、ビジネスの主軸として進めるものであり、同時に「ひと」の心を育てるためのものです。例えば、空調の温度や照明の照度、エスカレーターの速度などを調整することによってモールの省エネルギー化を進めていますが、一つひとつ説明を重ねたことで、お客さまにもご理解をいただけるようになりました。今後は、環境に配慮した電気自動車の普及のため充電設備の実証実験にも参加する予定です。イン

フラ整備をはじめ社会の動きを注視し ながら、先駆けて取り組んでいきます。

その他の取り組みとして、行政との防災協定も例に挙げることができるでしょう。現在、42のモールで自然災害などいざというときに協力できる体制を整えています。2010年2月に発生したチリ地震による津波が報じられた際には、青森で避難勧告のあった1,400世帯の避難場所としてイオンモール下田の駐車場の利用を申し出ました。

避難用の施設を新しく設けることは自 治体にとって負担が大きく、既存のモー ルを別の機能でも有意義に役立てていた だくことで、地域に溶け込み支え合う体 制が生まれることでしょう。それも「ま ちづくり」において重要な視点だと考え ています。

| 世の中を明るく元気にするために | 従業員の意識を変革する

「まちづくり」とは「ひとの集積」でもあります。イオンモールで働く約8万6,000人のテナントさまの従業員が誇りと自信をもち、ともに世の中を明るく元気にしたいという気持ちは、社会への貢献につながるでしょう。ときにはお客さまからお叱りを受けることもあります。しかし、叱るのも叱られるのも、同じ地域に暮らす「ひと」です。従業員が謙虚な姿勢で向き合うことで、地域全体をよりよくすることにつながるのです。

教育とは叱ることだけでなく、認めることでもあります。テナントさまの従業員を対象とした「接客ロールプレイングコ

ンテスト」などを通じて、表彰し讃えあう ことが全員のやりがいにつながっていま す。がんばっている人に働きがいをもっ て成長いただきたいと願っています。

今後の課題として、女性のゼネラルマネージャー(GM)の育成が挙げられます。本社の部長や、GMに次ぐポジションでは女性の活躍にめざましいものがありますが、GMの重責を知ると「自分はまだまだ…」と思ってしまう部分もあるようです。さまざまな場面に積極的にチャレンジする意欲をもつ人を全社をあげてサポートすることは、働きやすい環境づくりとあわせて必要であると認識しています。

謙虚に、しかしダイナミックに挑戦する企業であり続ける

2011年に、イオンモールは設立から 100周年を迎えます。時代が変われば求められる「まち」のあり方も変わるため、「輝きのあるまちづくり」のためには変化対応力が不可欠です。プロパティマネジメント事業による地域の活性化を含め、商業施設をつねに進化させ、業態そのものも果敢に作り替えていく気概を今後ももち続けなければなりません。

一方で、どんなに時代が移ろうとも、小売業は「ひと」が幸せに暮らせる環境のもとでこそ成り立つ平和産業であるということは不変です。周囲の意見に耳を傾けながら、自ら汗をかき、謙虚に働く。そんな「ひと」が働く会社こそ、持続的に成長できる企業であると肝に銘じ、これからも「まちづくり」を進めていきます。



イオンモール株式会社 代表取締役社長

村二教行

イオンモールの概況

2009年度の経済報告

当連結会計年度におけるわが国経済は、一部消費財の需要に回復の兆しがあったものの、雇用・所得環境の悪化やデフレが進行する等、個人消費においても先行き不透明な状況で推移しました。

小売業界における業種業態を超えた競争激化を背景に、ショッピングモール業界においては、厳しい消費環境や金融機関の厳しい融資姿勢に伴う専門店企業の出店先選別が進むなか、モール間格差が拡大し、ディベロッパーの優勝劣敗がより鮮明となっています。

このような状況の中、当社グループは経営資源配分の見直しを図り、当連結会計年度における新規出店を2モール(前連結会計年度4モール)に厳選する一方、既存6モールの活性化を実施し、お客さまニーズに対応した地域一番の競争力あるモールづくりを推し進めました。また、新たな収益源確立に向けた取り組みにも注力しました。

新規モールについては、4月にmozo wondercity(モゾ ワンダーシティ/愛知県)、イオンモール広島祇園(広島県)の2モールをオープンしました。また、2010年3月の2モールオープンに向けた取り組みを進めました。

既存モールについては、3月にイオンモールつがる柏(青森県)、イオンモール秋田(秋田県)、イオンモール三光(大分県)、9月にイオンモール浜松志都呂(静岡県)をリニューアル・オープンしました。さらに、11月にはイオンモールむさし村山ミュー(東京都)、イオンモール名取エアリ(宮城県)において、百貨店

が退店した跡区画を専門店ゾーンとしてリニューアル・オープンしました。当第3四半期連結累計期間における既存45モールの専門店売上は、前期比97.4%でしたが、当第4四半期連結会計期間3カ月では前期比101.4%となった結果、当連結会計年度では前期比98.5%となりました。来店客数は前期比102.6%、来車台数は前期比102.7%となりました。さらに、翌連結会計年度における既存モールの活性化計画を見直し、当初計画の倍となる12モールのリニューアルに向けた取り組みを推し進めました。

イオンモールでは、中期的な取り組みとして、商業施設のコンセプトの企画・専門店誘致・オープン後の運営管理も行うプロパティ・マネジメント (PM) 事業と中国におけるモール事業の展開に向けた取り組みを進めています。

PM事業では、7月にJR東日本から受託したペルチ土浦(茨城県)をオープンし、11月には京都駅前にて清水建設株式会社が建設中の大型商業施設におけるPM業務を受託し、2010年6月のオープンに向けた取り組みを進めています。

中国事業については、2008年11月に開店したイオン北京国際商城ショッピングセンター (中国・北京市) に2009年9月にシネマコンプレックスを導入した結果、同モールの知名度の浸透とともに、売上が増加し好調に推移しています。 新たな拠点の開設については、イオンモール天津TEDAショッピングセンター (中国・天津市)の2010年秋のオープンに向けた取り組みとともに、新規物件開発を推し進めています。

これらの取り組みの結果、既存店ベース (45モール) の不動 産賃貸収入1,244億1千3百万円 (前期比98.6%) に加え、新規

会社概要(2010年2月20日現在)

社 名: イオンモール株式会社

設 立: 1911年11月

資 本 金:166億66百万円

本社所在地:千葉県千葉市美浜区中瀬1-5-1

モール数:52モール(単体)

事業内容: 大規模地域開発及び

ショッピングセンター開発と運営 不動産売買・賃貸・仲介 [国土交通大臣(1)第7682号]

社 員 数:579名

CSR推進体制図 計長 イオン行動規範 イオンモール経営理念 イオンモールSR会議 リスク管理委員会 代表環境管理責任者 社会貢献委員会 環境委員会 コンプライアンス委員会 ● ISO14001推進 コンプライアンス推進 募金活動 ボランティア活動 CO2削減委員会 Pマーク委員会 ● 社会福祉活動 ● 個人情報保護 ● 地球温暖化防止 イオン行動規範委員会 J-SOX 推進グループ

モール (前連結会計年度4モール、当連結会計年度2モール)等の不動産賃貸収入145億2千9百万円の寄与もあり、営業収益は1,389億4千2百万円 (同106.2%)となりました。

営業総利益は、新規モールによる利益増加の一方、既存モールの営業収益減少や、リニューアル・オープンに向けた工事等による営業機会ロス等により、472億5千3百万円(同97.6%)、営業利益は、業務の効率化や経費構造の改善に取り組み販売費および一般管理費を削減した結果、372億1百万円(98.2%)となりました。

経常利益は、営業外収益が25億4千8百万円(同156.3%)、 営業外費用が35億5千4百万円(同142.6%)となった結果、 361億9千5百万円(97.8%)となりました。

特別損益では、特別利益として核店舗受取退店違約金等30億 8千3百万円、特別損失として既存モール活性化に伴う固定資産 除却損等20億1千万円を計上しました。

これらの結果、当期純利益は218億9百万円 (同102.0%) の 過去最高益となりました。

なお、当連結会計年度における当社グループの運営する商業施設数は、国内52モール(51モールおよび1駅ビル)、中国1モールの合計53モールとなっています。

財務報告に係わる内部統制 (J-SOX)

イオンモールは、従来より会社法に定められている「内部統制システム」を構築してきました。さらに2009年度より、金融商品取引法に基づく「財務報告に係わる内部統制」(通称

J-SOX)に対応しています。具体的には財務報告の信頼性に及ぼす観点からのリスクとそのコントロールを明確にルール化し、その整備状況・運用状況を社内で内部評価し、不備事項が検出された事項は「改善」を実施するという形で、PDCAサイクルを回すことを全社で取り組んでいます。

なお、「財務報告に係わる内部統制」ですので、財務・経理部門での処理業務の対応は当然ですが、そこに至るまでの業務についてもリスクに対してのコントロールが有効に機能していることが必要です。モールの物件の開発に伴う「土地・建物の取得や賃貸借契約締結業務」、モールにご入店いただくテナントさまとの「出店契約の締結業務」、また日々のモール営業では「家賃の精算・確定・請求業務」や「地代家賃の支払い依頼業務」など、さまざまな業務にわたり「財務報告に係わる内部統制」が有効に機能していることが求められます。

さらに、上記の業務に対する統制行為が適切に行われるための基盤として、「当社の基本理念が全社的に浸透していること」「規則・規程類が整備されていること」「意志決定者や機関が明確になっていること」「リスクに対する評価と対応が明確になっていること」「社内での内部監査体制が整っていること」「ITシステムの管理体制が整っていること」なども、内部統制が有効に機能する前提として必要です。

以上のように、「財務報告に係わる内部統制」が有効になるべく「内部統制の構築並びに評価活動」に取り組んでいます。 この制度は年度末単位で最終評価しますので、今後も継続的に活動内容がさらに充実したものになるよう全社的に取り組んでいきます。

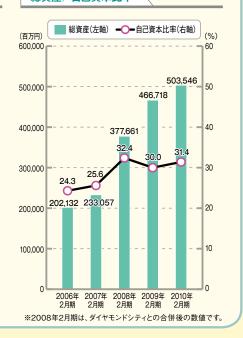
営業収益と営業利益



経常利益と当期純利益



総資産/自己資本比率



特集

一人ひとりが、未来を考える イオンモール社員と役員の座談会

イオンモールは、2011年に設立から100周年を迎えます。 これまでを踏まえ、これからを見据える節目として、 若手社員と役員による座談会を開催しました。 現状の課題を掘り下げ、これから何をなすべきかを考えます。 日時

2010年1月9日(土) 12:30~17:00

会 場

イオンモール本社 会議室

ファシリテーター

IIHOE [人と組織と地球の ための国際研究所] 代表 川北 秀人氏

レクチャーの

世界と社会の現状 これからの10年を考える 視点をもつ

イオンモールの未来を描くためには、まず現状を把握する必要があります。そこで、イオンモールを取り巻く社会と環境のことを知るために、IIHOEの川北秀人さんに講義をお願いしました。世界ではどのようなことが起き、何を考えなければならないのか。議論の土台となる情報や考え方について語っていただきました。

講師プロフィール



川北 秀人氏 IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表

1964年大阪生まれ。(株) リクルート、国際青年交流 NGO 代表、国会議員の政策担当秘書などを経て、1994年にIIHOE設立。大小さまざまなNPOや社会責任志向の企業のマネジメントを支援するとともに、環境・社会コミュニケーションの推進を支援している。



考えなければならないのは ✓ 「今」「次」「次の次」

いままでとこれからはどう違うのか。10年後の2020 年を基準に、さまざまな角度から考えてみましょう。

例えば経済では、2010年に中国のGDP(国内総生産)が日本に並ぶと予測されています。では、2020年にはどうなっているか? 日本の成長は1%、570~580兆円と予測されているのに対し、中国は7%の成長で1,100兆円を超えるといわれています。また、日本国民の一人あたりGDPは、ここ数年世界で15~20位あたりを推移しています。この数値を上げるためには、女性や外国人の雇用率向上や登用が大きな鍵を握るでしょう。

人口の面では高齢者率の上昇が顕著です。1990年には高齢者一人を5.5人で支えていましたが、今は2.7人で支えています。2020年には2.0人、2030年には1.8人になってしまう計算です。

このような視点で考えると、これからの日本が「働き続けられる国」になることが重要です。 高齢でも育児や介護があっても「働き続けられる会社」がなければ、この状況を支えていくことができません。

いま企業に求められているのは、「今」から2012年くらいまでに実現すべきことを整理すると同時に、「次」の時代である2020年、「次の次」である2050年まで見据えて備えることです。それらを自分たちの言葉で明記し、目標に向かっていく姿勢が重要です。

参加者

所属・役職名は当時のものです

専務取締役 営業本部長 山中 千敏 常務取締役 管理本部長 平林 秀博 取締役 SCサポート部長 相馬 勝 経営企画部長 片江 啓訓

管理本部 CSR推進部 部長 矢島 誠

開発本部 建設部 設備担当 藤井 健営業本部 イオンモール大和 GM 中根 健営業本部 イオンモール草津 営業 MG 志賀 幸紀営業本部 PM事業部 ペルチ士浦 オペレーションMG 永井 志保

開発本部 活性化サポート部 MG 南 慎一郎 財経本部 財務部 財務 G 原 篤史 営業本部 リーシング統括部 第1リーシング部 部長 山元 広美 営業本部 マーケティング部 松尾 倫子 営業本部 イオンモール日の出 オペレーション担当 丹野 雅博

管理本部 CSR推進部 環境・社会貢献室 GM 松井 正子 ※今回の座談会を受け、さらに気候変動に特化した勉強会を、2010年3月16日 (火)、 4月13日 (火)に開催しました。





「グローバル」「リージョナル」 「ローカル」の視点と、教育の重要性

イオンモールはすでに中国に出店していますが、日本でのやり方が通用すること、しないことがあるでしょう。法規制が違いますし、ニーズや価値観も異なります。国や地域、事業領域が変われば、考え方も変えなければなりません。今後海外展開を拡大するなかで、「全世界で共通に展開する原則」と「地域ごと」「国ごと」の特性を明確に分ける必要があると思われます。その中には、いままで国内で培ってきたノウハウを活かせる部分も、もちろんあります。

また、事業を展開する地域の経済力を高める取り組みも大切でしょう。その投資として注目したいのは「教育」。海外出店先の社員教育のあり方、テナント従業員の家族の教育問題などが考えられます。2020年に就職するのがいま12~13歳の小中学生だと考えれば、その重要性がわかるのではないでしょうか。子どもたちが仕事に対する意欲や自信をもてるようにすること、成長する中国やインドなどに負けない人材を育てるのは、教育の役割なのです。その支援として、イオンモールにできることを考えてください。



環境の最重要トピックは 「水の質と量の確保」

次世代への投資を環境側面で考えると、重要課題は「水と土と森」です。土や森に関しては、イオンモールはこれまでたくさんの植樹を行ってきています。しかし2020年には、地球温暖化への対策も生物多様性の保全も当たり前になり、最大のトピックは「水」になるはずです。

日本は水の豊かな国ですが、水資源量が少ない国では 日本の常識が通用しないことを織り込んでいかなければ いけません。「水格差」はすでに世界で発生していますし、 「水ストレス」を抱える国も多いのです。中国では水の使 い方が国内と異なるため、テナントに水を供給したり、排 出した水を「磨いて再利用する」技術が向上するはずで す。その技術を販売することで事業化するというビジネ スチャンスも考えられるのではないでしょうか。

「教育」も「水」も、2020年以降の社会に生き、働く世代への投資です。その実行に際しては、必ず数値目標を立ててください。外部に発表しなくてもよいですし、ばくっとした数字でも構いませんが、経営指標として位置づけなければ管理・改善はできないのです。ぜひ具体的な目標をもって取り組んでほしいと思います。







レクチャー②

イオンモールの現状 変化に対応できる 人材を育てるために

変わる世界の状況の中で、 イオンモールは何を重視して事業を行うべきなのか。 CSR推進部環境・社会貢献室の松井正子が現状と 今後の方向性をまとめました。





講師

松井 正子 CSR推進部 環境・ 社会貢献室 ゼネラルマネージャー



イオンモールのCO2排出量実績

2006年度

285,602t-CO2 (42モール)

2009年度 87649t-C

287,649t-CO₂ (51モール)

若手社員による座談会

レクチャーを受け、これから重要な課題となる「教育」と「環境」について、 イオンモールに求められる施策・改善を若手社員が話し合いました。

チーム教育についての意論

社内に向けてやるべきこと

●法規制の勉強

各部門で必要な法規制を学べるような体系を構築する(物件探索からモール運営まで)。

●資格制度の確立

現状の資格制度に加えて、勉強した成果が評価され職位に 連動させる仕組みをつくる。GM*1に必要な営業・オペレー ション業務の資格を決める。

●国内外の現場の理解

風土や習慣の違いを理解するために、まず現場に着任する。 (出張ではわからないことが多い)

※1 GM: ゼネラルマネージャー

●お客さまを巻き込むこと

環境問題などを伝える際、子どもたちを直接巻き込んだイベントなどで体験する場を増やす。導入した施設を見たことがない方も多いので、地域の皆さまに対して説明会を開く。

社外に向けてやるべきこと

●地域の先生や教育委員会との連携

子どもたちのイベントで、社会や理科の先生などが参加し啓 発できるようにお願いをする。

●社会問題への参画

DV防止やピンクリボン活動などモールでの場所の提供にとどまらず、自分たちがともに活動することで学んでいける機会にする。

社内外で「理念の共有を推進できる人」を育成していく









─人ひとりが自覚しながら✓ リーダーシップをとる

イオンモールは日本国内の商業専業ディベロッパーとしてリーダーシップをとってきたという自負があります。私たちイオンモールの社員は約1,000人、テナントさまおよびその関連会社で働く従業員を含めると約11万人の規模になります。その全員に活動を理解していただくためには、約1,000人のイオンモール社員が「理念の共有を推進できる人」になる必要があるのです。

海外初進出となった中国・北京のモールでは、日本で研修を受けた現地の社員が、学んだことを実践しようと一生懸命がんばっています。私たちの環境・CSR活動がデファクトスタンダードになる可能性もあるということを忘れず、一人ひとりが地球規模の視野をもつ必要があるのです。

既存のやり方を大切にしつつ 変化に対応できる思考を

たとえば、CO2の排出削減。イオンモールでは2012年を目標に活動していますが、世界では2020年、2050年が目標となりつつあります。そこで新たに「2050年に2006年度比で60%~80%削減」というシナリオの検討を始めました。設備の運転管理改善とともに、新規オープンや既存店リニューアルの際に太陽光発電の導入などに積極的な設備投資を行いたいと考えています。

また、社員対象に環境家計簿への参加を促していますが、 今後はお客さまの「ライフスタイルの変化」にも対応して いく必要があります。これまで基準としてきた営業時間や 店内のレイアウト、立地なども、見直す必要が出てくるかも しれません。お客さまのご支持をいただきながら、持続可 能性を考えていかなければならないのです。



日本国内のモールでやるべきこと

設備や仕組みの共有化・共通化

建設ごみや段ボールを減らせるように什器に共通の設計を盛り込んだり、エネルギー管理や各モールの環境コミュニケーションを共有し、水平展開する仕組みをもつ。

●設計や設備の見直し

階高が従来通りの設計でよいのかを検討したり、振動で発電 するマットなど新しい有効な設備の導入を検討する。

● テナントさまとの協力

現状は、テナントさま退店時に床や壁、天井などの原状回復をお願いしているが、次に入るテナントさまとの交渉によって残せるものは残す。

●社内外に向けた教育

地域の人々にモールでの環境への取り組みを見学していただく。また、活動や設備の効果検証を見ていただく。 コストと 成果が見えることで、よりわかりやすくご理解いただける。

海外 (特に中国)でやるべきこと

●イオンモール基準の作成

イオンモールの培ってきたさまざまなノウハウや技術を、中国の状況に合わせて基準化し、導入できるようにする。

お客さまに参加いただく活動

国内外問わず、環境家計簿やクリーン&グリーン活動※2や植樹、献血、募金などの活動にご参加いただいたお客さまに「環境マネー」を発行する。マネーは環境配慮の商品などと換えられるようにして、環境意識の醸成を図る。

● 社内外への教育

留学生を積極的に受け入れ、環境の知識を身につけ中国で の活動を牽引するリーダーを育成する。

※2 クリーン&グリーン活動: 毎月11日の「イオンデー」に、公園、河川敷、駅前、店舗周辺の道路など公共施設・用地の清掃等を行う活動







未来に向けてのアイデア

座談会を通じて考えた、2010年のイオンモールのあるべき姿

女性のGMは全体の 15~20%になっている。 そのための土台を つくっていく 生物多様性だけでなく、 人的多様性にも 対応できるようにする



今回の座談会の内容や レポートに書かれている ことが、みんなの意識に 共有されている まだまだ 知らないことだらけだと 気づいたので、自分たちで、 今回の座談会のような

場づくりができるようになる



誰もが 活躍できる職場に

> 隣で外国人が働いていることが 当たり前になっている

自ら意識を変える



テナント従業員と 密接にコミュニケーションを図り **離職率を半減**させる



全社員が、 自分のことばで 会社やモールのことを 語れるようになっている

地域のなかで、 モールが担う役割を 考えられる人材が 育っている

座談会を振り返って

役員からのメッセージ

一人ひとりが目的意識をもち 取り組むことの大切さ

今回、レクチャーや座談会でこれまで積み上げてきたたくさんの事例が出てきています。しかし、それが何のための活動で、結果としてどのような効果があったのか、内容を理解して発表しなければならないという課題も見えてきました。例えば、環境活動として行っている電力使用量のチェック。モールのオペレーションマネージャーが書いているのでしょうが、電力会社に言われたとおりにやっているだけにならないように、なぜやるのか、なぜ数値が下がったのかを社内外で共有することが大事なのです。目的を常に頭の中に入れて意識し、一人ひとりが積極的に取り組むことが大事ですし、そのための体制づくりも必要になると思っています。

専務取締役 営業本部長 山中 千敏

自分たちが基準になるという 高い意識で実現をめざす

今、日本でイオンモールが取り組んでいる活動や技術を海外展開に活かせば、圧倒的なナンバーワンになれる可能性が高い。つまり、私たちはデファクトスタンダードを作り上げていく使命をもっているのだと自覚すべきです。設備投資や環境投資は、次の時代に不可欠であると同時に、ビジネス上のアドバンテージでもあります。残念ながら現状では他に優先すべき課題もありますが、「できない」とあきらめるのではなく、実現する方法を考えていかなければいけません。議論で出てきた「環境マネー」の考え方などはそのひとつでしょう。お客さまの「参加」を通じて、イオンの理念に共感いただく「ファン」を増やせるのではと思います。

専務取締役 管理本部長 平林 秀博



座談会で出てきたさまざまな意見を踏まえて、 全員で未来のイオンモールがどのように 変わるべきかをまとめました。







今までのノウハウを データベース化して **共有する**ことで、 目標ややっていることが末端まで 行き届いている 一人ひとりが国際的な感覚をもち、 出店した各国の風土に溶け込み、 「地球人」として働けるようになる

国内・海外という 感覚がなくなっている

技術やノウハウを 活かす



技術の発展を取り入れて 設備などを改善し、 生産性を高める体制を つくっていく 海外でもモールが増え、 社員も外国人が増えて、 働き方も変わる

► グローバル化を 進める

複数の事業・業態をもって

海外へ進出し、 **アジアナンバーワン**に なっている

グローバリゼーションが進み、 **本社は中国**におかれている

これまでの経緯や活動の成果は 蓄積すべき資産

議論に参加して痛感したのは、社内・社外で情報を共有するための 仕組みが未整備だということです。現時点のオペレーションのこと は把握していても、「なぜこうなったのか」の整理ができていない部 分もあります。なぜ現在のスタイルになったのか、過去の歴史的な経 緯がわかれば、参画する動機づけになりますし、入り込みやすくもな ります。イオンのモール型ビジネスをリードする会社として、国内外 に多数のモールを構えることが目標ですので、過去の苦労などを収め たデータベースが活動を下支えすると考えています。また、経営に携 わる私たちがきちんと説明できるツールも必要になるでしょう。



取締役 SCサポート部長 相馬 勝

一人ひとりが会社全体を見る視点を常日頃からもち 「森」を語れる社員をめざして

イオンモールは合併を機に事業規模も大きくなり、ステークホルダーの皆さまのイオンモールを見る目が一段と厳しくなり、イオンモールへの期待も年々高くなっていると考えます。そういった点を考えると、仕事への取り組み方も属人的な仕事の仕方から組織で取り組んで成果を挙げられる仕事の仕方へ切り替えていく必要があると考えます。また、社員の意識も常に広い視野に立って会社全体としてものを見て考えるということが必要になると考えます。

それぞれのモールは1本の「木」です。それらが集まった「森」と してイオンモールを見たとき、社員一人ひとりが「森」を見て語れ

るようになっていることが大切なので す。これが、海外で事業展開を進めて いくうえでより重要になると考えます。





「ひと」とともに、「まち」とともに。

お客さま満足をめざして

イオンモールが展開する大型ショッピングモールは、単なるショッピングの場ではありません。 おいしいものを食べたり、イベントを楽しんだり、環境活動や社会貢献活動に参加したり…。

誰もが楽しい時間を過ごすことができ、地域の豊かな暮らしと新しい文化を創造する場所なのです。

さまざまなパートナーさま

イオンモールでは、モール運営にかかわるすべての方々を 「パートナーさま! とお呼びしています。

テナントさまやお取引先さま、地域にお住まいの方々や 株主さまも、パートナーさまです。

モールビジネスはイオンモール1社だけでは成り立ちません。 さまざまなパートナーさまの協力をいただきながら、 よりよいモールづくりを進めています。

設計・建設にかかわるパートナーさま

環境負荷の低いモールの 実現や、建設時に騒音・振 動などで地域の皆さまに ご迷惑をおかけすること がないよう、協力してモー ルづくりを進めます。



いろいろなお店で ショッピングを 楽しみたいわ

> いつ行っても、 わくわくどきどき したいな!

廃棄物にかかわるパートナーさま

地域にモールがオープンすることで、新たな取引が生まれます。 適正処理によるリサイクルの推進などでゼロエミッションモールをめざします。



行政・公共サービスなど

役所や銀行の窓口をモール内に 設けたり、地域と防災協定を結 んでいざというときに協力できる 関係を築いています。



イオンモール社員

約1,000人

(インフォメーションカウンター、 防災センター含む)



テナント、 テナント従業員

約86,000人

テナントさまをはじめ、イオンモールで働く人

約11万人

1年間のバスご利用者数

延べ約521万人



イオンモールのお客さま

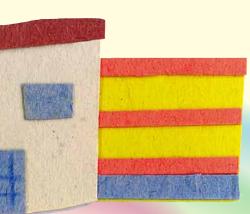
全国で年間 約4億人

お客さまのご要望はひとつではありません。 モールへのご期待は千差万別です。 そんなさまざまなお客さまの声に耳を傾け、 お応えしていくことがイオンモールの使命です。

テナントさまにかかわる パートナーさま

テナントさまで使用する食材やお しぼりなどを地域のパートナーさ まから調達しています。地産地消 の取り組みも進めています。







行政や銀行の 窓口もあると 便利だね!

配送にかかわるパートナーさま

テナントさまの商品や資材を運び、安全運転とエコドライブに留意していただいています。







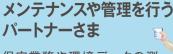
新しいお店や 情報にいち早く 接したいね





テナントの3分の1は地域の専門店に 出店いただくのが、イオンモールの基本方針です。ともに地域を活性化して いきます。





保安業務や環境データの測定など、専門のパートナーの力を借りて行っています。



家族みんなで楽しく すごしたいわね



地域にお住まいのパートナーさま

地域に必要な役割を果たせるモールづくりのために、 出店時説明会やヒアリングを通じて、皆さまの声を運営に反映します。

モールができると、約3,000人の雇用が地域に生まれます。

モールの一員として地域に根ざせるよう、従業員教育や福利厚生にも力を入れています。

植樹やクリーン&グリーン活動、募金活動などを通じ、

環境保全や社会貢献活動に力を入れるほか、 バス便の増設などで地域の利便性向上もめざしています。

ショッピングモールが 地域にもたらす価値と負荷の認識

約3億円

イオンモール日の出が日の出町に納めている固定資産税。税収により、後期高齢者医療費の無料化や、75歳以上の町民の医療費個人負担分をすべて町が負担するなどの取り組みを行えるようになりました。



東京・日の出町の『広報 日の出』 に取り上げられたショッピングモール (イオンモール日の出)



「大和郡山市 元気城下町プラザ」は地域で発掘された出土品などを展示し、市の歴史を知ることができるスペース (イオンモール大和郡山)

座談会から

海外での建設では、日本の最新技術と 現地の水準に合った技術のどちらを導 入すべきか悩みますが、現地の要望を取 り入れながら計画に反映させています。

地域を活性化するショッピングモール

地域にショッピングモールができることで、地域の皆さまが買い物やレジャーを楽しみ、それまでになかった活動範囲や生活パターンが生まれるというメリットがある一方、交通量の変化や開発によって環境に影響が出ないかといった懸念も、当然発生します。

「輝きのあるまちづくり」をめざすイオンモールでは、モールの開発・設計を行う際、地域の皆さまに提供できる価値を最大化しながら、地域にかかる負荷を最小限に抑えることを追求しています。

地域の状況によってモールに求められる機能は異なります。イオンモールは計画段階から地域のニーズに応えるためのヒアリングを重ねるとともに、商圏調査・交通調査などを綿密に行っています。そして計画の進捗にあわせて住民説明会を開催し、さらなるご意見を伺いながら、実際の建設へと進めていきます。

地域の暮らしと 経済に与える影響

オープンに向けてテナントさまを募集する際には、地域の専門店、全国に店舗を展開するナショナルチェーン、地域初出店のテナントがそれぞれ3分の1になるよう配慮しています。さらに、お客さまに地産地消の商品やメニューを提供していただけるテナントさまも積極的に誘致しています。

地域の企業がモールに出店すること がさらなる成長の足がかりとなり、そこ から全国展開チェーンへと成長した例もあります。このように、モールビジネスの可能性を実現するパートナーとして、イオンモールはテナントさまとのWin-Win(共存・共栄)の関係構築を心がけています。

新しいモールがオープンすることで、より広い地域からの集客が見込め、消費の量が増大し、新しい雇用の場も創出されます。地域で働き、地域で消費することで、地域内の経済が活性化されている例が多くあります。

モールが地域に溶け込むことで、自 治体の税収に大きく寄与しています。 財政への貢献により、社会福祉サービ スが向上する自治体も見られるように なりました。

すべてはお客さまのために

これがイオンの活動の基本です。その実践のために、イオンピープル(イオンで働く人々)がとるべき行動の指針として、2003年4月に「イオン行動規範」を定めています。

イオンモールはイオンの一員として 社員に「イオン行動規範」の浸透を図 るとともに、モールに出店するテナント さまの従業員を含め、「お客さま第一」 を基本理念に掲げて活動しています。

イオンモールでは、常に「お客さま第一」で行動していますが、さらなる向上をめざして、お客さまの視点から直接ご 指摘をいただくために、すべてのモールに「お客さまの声ボックス」を設置しています。 また、社員一人ひとりが社会や世界に 目を向けるよう、2005年度から「イオンモールSR賞」を設けています。環境 保全や社会貢献活動に積極的なショッ

ピングモールや部署を表彰し、社員の自 主的な参加や工夫が生きる風土を育て ています。

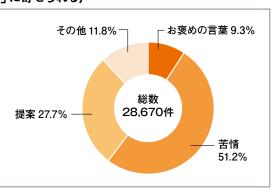
data 01 イオンモールSR賞の受賞一覧

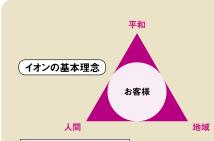
表彰名	受賞モール/部署	実 績		
行動規範推進賞※	イオンモール直方	178名		
募金活動賞	イオンモール高知	3,205千円		
献血活動推進賞	イオンモール秋田	5,068名		
クリーン&グリーン賞	イオンモール太田	4,193名		
環境家計簿団体賞	イオンモールつがる柏	152名		
リサイクル率向上賞	イオンモール川口グリーンシティ	170% (2008年度 58.2%→2009年度 99.2%)		
SR会議敢闘賞	永旺夢楽城(中国)商業管理有限公司 永旺国際商城購物中心	海外においても、 国内同様積極的に活動		

※イオングループ各社のテナント従業員とイオンモール合同で「イオン行動規範」教育を行っています。より多く受講したモールを表彰しています。

data 02 「お客さまの声ボックス」に寄せられる声

「お客さまの声ボックス」に投函いただいたすべてのご意見やご質問は、各モールのGMが目を通し、社長や関連する本部長にも回覧しています。お客さまから直接いただくさまざまな「声」は、より良いモールづくりのための原動力です。これからも「お客さまの声」を大切にしていきます。







イオングループで働く人=イオンピープルのとるべき行動の指針をまとめた「イオン行動規範」の冊子





モールで「お客さまの声 ボックス」に投函いただ いたご意見は、GMが確 認し、回答を店内に掲示

From AEON MALL

パートナーさまを巻き込みながら、CSR活動を次のステップへ

50を超えるショッピングモールを日本全国に築いたいま、イオンモールのCSR活動を次の次元にレベルアップする必要があると感じています。必要なのは、社員だけでなく、お取引先さま、株主、お客さまや地域といったパートナーさまを巻き込んでいくことです。

今後、日本は超高齢化を迎えて市場が変化するで しょう。一方でイオンモールは海外展開も進めてお り、長期的には国内と海外の売上比が半々くらいになるときも来ると予想しています。そのような状況のなか、イオンモールはこれまでの事業のノウハウを活かし、業界を牽引して新しい時代の新しいスタンダードを作っていく使命を担っていると自覚し、行動する必要があると思いを新たにしています。

専務取締役 管理本部長 平林 秀博



安全で、快適な ショッピングモールをめざして

42€-ル

地元自治体などと防災協定を締結しているモールの数

49€-ル

AEDを設置しているモールの数



モールに設置しているAED。緊急時の取り扱い方法も わかりやすくなっています。



緊急時の避難スペースになるバルーンシェルター

災害が起きたときの対策

イオンでは、もし地域に災害が起きた とき、モールが対策や避難の拠点となる ような体制を整えています。

万一の際、自治体などと連携した支援 ができるよう、全国で防災協定の締結を 進めています。駐車場を避難場所とし て開放したり、物資の提供、人的な支援 など、各地域の状況に合わせた内容の協 定書を交わしています。

また、地震などで被災者が出た場合 の避難スペースとして、「バルーンシェ ルター」の配備も進めています。バルー ンシェルターは緊急避難用の大型テン トで、駐車場などに設置します。

イオンモールでは、自治体などと共同で、モールの敷地を使った防災訓練を実施。防災ヘリコプターや防災ロボットなども参加する大規模な訓練を行う地域もあり、地域の皆さまの防災意識向上にも役立っています。

毎日の暮らしだけでなく、もしものと きにも地域を支えられる存在であるた めに、イオンモールはこれからも防災活 動に力を入れていきます。

毎日の安全のために

広い敷地面積を持ち、多くのお客さまがご来店されるモールでは、安全で快適にすごしていただくための設備や人員配置が不可欠です。建築基準法や消防法などの関連法規を順守した防災設備の設置を行うほか、各テナントさまにも、指導を徹底。開店前に内装時の規定をチェックするとともに、開店後は通

路や階段、非常扉などの避難通路に物 を置かないことなどをテナント従業員 に日常的に指導しています。

モール内で心室細動を起こした方への対応として、AED(Automated External Defibrillator:自動体外式除細動器)の設置も進めています。社員やテナント従業員に定期的な訓練も行っています。

また、安全や防災に対する取り組みの一環として、地域の警察や消防出身者を雇用し、防災担当や渉外担当としてモールの運営や指導を行っています。本人の新しい活躍の場づくりとして、また経験を活かしたよりよい安全・安心づくりのために、キャリアを活かしていきいきと働いています。

すべてのお客さまの 満足をめざして

すべてのお客さまが安全で快適にす ごせるモールづくりが、イオンモールに とっての大きな責務と認識し、ユニバー サルデザインの導入を積極的に進めて います。

広いモール内では、主要な設備などのサインが非常に重要です。初めてでも迷わないように、専門家を交えて色や大きさなどを検証。見やすさ、わかりやすさを追求してきました。

お客さまのご利用頻度が高いトイレでは、快適さや使い勝手を重視しています。ご高齢の方や車いすのお客さまに便利な多機能トイレ、オストメイト対応トイレ、お子さま専用トイレなどを設

置。また、ゆったりとしたパウダールームや授乳室、ベビーベッドなどを設け、必要なときにお役に立てる空間の提供を積極的に行っています。

また、長い距離を歩いても足が疲れにくいよう、メインフロアに弾力のあるカーペットを敷く一方、カートや車いすをご利用のお客さまが移動しやすいよう硬いタイル床も並行して設置する例もあります。

駐車場では、身障者専用スペースを 確保。専用のリモコンをお渡ししてご 利用いただくなど、必要とされる方が 確実に使える環境を整えています。

他にも、疲れたときに座れるベンチやソファを通路に多数配置。ご高齢の方やハンディキャップをお持ちの方の優先席も設けるなど、安全で快適な設備の充実を図っています。



ご迷惑をおかけしました

火災報知器のいたずら防止カバーの設置

モール内各所に設置されている火災報知器のいたずら事故により、ご来店のお客さまには大変ご迷惑をおかけすることがありました。特に事故発生時に映画をご鑑賞中のお客さまには、上映中の作品が中断されるなど単なるいたずらでは済まされない影響が発生します。現在は全国34モールの約



2,500カ所の警報機にいたずら防止カバーを装着しました。いたずらしようとカバーを開けると、大きな警報音が周囲に響き渡りますが、閉めるとすぐに止まるようになっています。今後もお客さまへのご迷惑を減らす努力を続けるとともに、安全確保に努めてまいります。

募金箱の盗難予防チェーンの設置

2009年夏季に実施した全国規模での募金活動で、一部のテナントさまに配置した募金箱が盗難にあうという事故が発生いたしました。従来このようなことはほとんど事例がありませんでしたが、対応策として速やかに全テナントさまに盗難予防のチェーンを配布し、お客さまの善意がごく一部の悪意によって台無しにならないように牽制の対策をとりました。





遠くからでも見やすいサイン



トイレの入り口はわ かりやすい表示に



子ども用のトイレ も設置



フロアの各所に置かれた、現在地のわかるインフォメー ションボード



使用時のみゲートを開く、車いす用駐車場 (以上、イオンモール大和郡山)

コミュニティの中心として機能するショッピングモール





ラオスで3年目の学校開校式で、合計100校を設立しました。ユニセフの要望により、さらに1年間活動を維持する予定です。なお2010年からはベトナム学校建設支援募金活動を実施します。



イオン1%クラブの取り組み

イオンモール高知では「よさこい祭り・ 秦演舞場」を2002年より開催。ちびっ こ踊り隊を含めた1万人以上が熱い踊り を披露しました。2日間で約1万人のお客 さまが観覧されました。



イオンの 活動



イオンモールSR賞 募金活動賞を受賞したイオンモール高知で の、24時間テレビ (日本テレビ系列) 募金活動風景。 毎年地域 のメイン会場となります。



イオンモール倉敷では、イオンモールに初めて導入した電気自動車を巡回パフォーマンスの交通手段として利用。 社会福祉施設の慰問に訪れる際に活用しています。





イオンモールSR賞 献血活動推進賞を受賞したイオンモール秋 田には、常設の献血ステーションが開設されています。



北総の里山保全のための活動を行っている北総里山クラブの イベントである「北総里山フェスタ」に参加。イオンモール千葉 ニュータウンのイオンホールを利用したシンポジウムを開催しま した。これからも里山のクリーン活動を継続していきます。



2000年の雄山噴火の影響で枯死した森を再生するため、2009年10月、三宅島に3年計画1年目の植樹に訪れました。イオン関係者30名を含むボランティア約80名が渡航し、島のボランティア約110名とともに2,000本の木を植えました。



2010年3月に、アンコールワット遺跡群で有名なカンボジア・シェリムアップ市郊外のチャウスレイ・ヴィヴォル遺跡で、日本からの26名と現地ボランティア74名の総勢100名にて1,000本の植樹を行いました。今回は2年計画で同遺跡周辺を緑化します。



2000年に設立したカンボジア学校を訪問しました。当時80名弱だった児童は290名にまで増え、卒業生から医師など活躍する多くの人材を輩出しています。



2010年4月に、中国・万里の長城で 植樹活動を行いました。

イオン環境財団の取り組み



2010年に33周年を迎える盛岡さんさ踊りに、イオンモールほかグループ5社で200人のイオンチームを結成し参加。パレード以外でもイオンモール盛岡のイベントでも踊りを披露し、多くのお客さまに伝統文化に触れていただく機会を提供しています。



環境にやさしい電気自動車の普及に不可欠なインフラとなる急速充電器。イオンモールでは大阪府からの助成を受け、イオンモールりんくう泉南に設置しました。他モールでも設置を進め、電気自動車の普及とCO2排出削減に寄与します。



毎年8月に開催される東北三大祭「秋田竿灯祭り」にイオングループとして参加しました。町内会によりイオンの大若竿灯が上がったほか、モールで働く従業員が中心になって「おばこ踊り」に参加しました。



毎年地域のボランティアに支えられ、今では沖縄県中部地域での恒例イベントとなった「おきなわマラソン」。イオンモールからも2名の選手が参加し完走しました。今後も地域の活性化やスポーツ振興に寄与できればと考えています。



四国の三大祭りに数えられる「新居浜太鼓祭り」は新居浜市民を熱くする祭りです。祭り初日にはイオンモール新居浜の駐車場に太鼓台が集結し、御礼口上、掻き比べを行い、祭全体を盛り上げました。

イオンの 活動

イオンモールの 活動

イオンモールの基盤を支える 社員の働きやすさのために





2009年8月28日に行われた「イオンタワー子ども参観日」では、社員の子どもが本社を訪れ、親である社員の職場を体験しました。

イオンモール社員が 果たす役割

各モールの現場では、テナントさまの売上向上のための販促イベントの実施、顧客満足度の向上などを担う「営業」と、モールの総務・経理・防災・環境など管理面でお客さまに安全で快適な空間を提供する「オペレーション」に大別されます。

「営業」「オペレーション」マネージャーの経験を経て、ゼネラルマネージャー(GM)への登用の道が開けます。GMにはモールの運営管理のほか、戦略・損益管理・人材マネジメントなどの経営的な視点も必要となり、モールの将来的なビジョンを実現することが求められます。

全国の各モールに配置される社員は 連携を密に取りながら日々の運営にあ たっています。毎月行われる営業会議 で全社的な目標と進捗を確認し、営業・ オペレーションの各マネージャー会議 でさらに細かく進め方などを議論し、各 モールで日々の業務に取り組みます。

多様な人材と さまざまな活躍を支える

さまざまなお客さまにご来店いただくモールでは、お客さまの多様な価値観 や期待に応えられる仕事の進め方が求 められます。

近年、女性管理職の育成に力を入れていますが、残念ながらモールのGM登用例はなく、登用に向け今後も積極的に施策を進めていきます。また、障がい者雇用については、2008年度以降、法定雇用率(1.8%)を上回る雇用数を実現しています。

フレックス社員 (パートタイマー社員) については、習熟度と昇給をリンク させた制度を設け、ステップアップを支えています。

事業の拡大に合わせ、今後は外国人の社員が増えることも予想されます。これらの変化に向け、文化やそれぞれの立場の違いを理解しながらイオンモールの理念を共有できる職場づくりが課題と考えます。

data 01 社員データ (2010年2月20日現在)

	2008年度	2009年度	
社員数(うち臨時雇用)	853名(304名)	904名(325名)	
新入社員数(男性/女性)	34名(17名/17名)	33名(16名/17名)	
障がい者雇用数(雇用率)	16名(1.9%)	14名(1.8%)	
育児休暇取得者数(うち男性)	5名(0名)	5名(0名)	

data 02 女性管理職の内訳 (2010年2月20日現在)

24 17 18 41 314 (10 10 1 11 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10				
		2008年度	2009年度	
GM / 部長職	本社	2名	2名	
GIVI / 部長噸	モール	0名	0名	
→ <u>> 21.</u>	本社	5名	5名	
マネージャー	モール	16名	22名	
合計		23名	29名	



モールにはたくさんの女性のお客さまがいらっしゃいます。女性の視点でモールづくりをするためにも、女性GMは誕生して然るべきだと思います。

ワークライフバランスの 向上をめざして

イオンモールでは、仕事と家庭の両立 をめざして積極的に取り組んでいます。

子育て支援では、次世代育成支援対 策推進法に基づいた行動計画を策定し、 千葉県労働局より次世代育成の認定事 業主として認められています。仕組みだ けでなく、子育てを見守る職場・企業の 風土づくりに力を入れてきました。また、 介護のために一定期間転勤のない制度 などを設け、家庭の事情に合わせた働き 方ができます。

労働時間の適正化については、各モール・本社で週1回「ノー残業デー」を設けたり、朝礼・昼礼での各自が業務を報告するなど労働時間の適正化に努めています。

社員の成長を促す さまざまなプログラム

社員がキャリアプランに沿ってステップアップできるよう、イオンモールでは教育制度の整備と目標設定・評価の透明性向上を進めてきました。

新入社員研修では、OJTを基本に新 人育成のため先輩社員がインストラク ターとなり、6カ月、配属された業務内 容の教育を行います。

毎年行われる登用試験を経て、上位資格への道が開けます。2009年度の登用試験合格率は約25%で、階層別の研修を約100名が受講しました。その他、会社としてのリスクヘッジの一環として、「法務研修」初級コース・中級コースを採り入れ、2010年度は「設備教育」初級を新たに行う予定です。

みんなで子育ですくすくガイドブック 一年だとは単の項の生態でして~



子育てを支援するために独自のガイドブックを作成。妊娠の段階からステージを追って必要な知識や手続きをまとめ、申請書類もわかりやすく統一。これらの取り組みが認められ、2007年に千葉県労働局より次世代育成の認定事業主と認められました。



職務で必要な専門性やスキルを養うために、さまざまな 研修を実施

研修の実施状況

研修	2009年度	累計	
内部監査員セミナー	32	419	
準内部監査員 セミナー	68	491	
廃棄物 リスク管理セミナー	71 169		
設備初級	2010年度より開始		

COLUMN

「人と人とがつながる活動」をめざして

イオンモール労働組合は第3期を迎え、組合員が日々の活動 やエリア活動に積極的に参画しています。

「働きたい会社」を実現するための施策として、2009年4 月から「職場環境改善ミーティング」を各事業所で月1回開催しています。また「現場リーダーの育成」のために、支部会と分会との定期的な情報交換を実施しました。

今後は、分会やグループ各社の枠を超えた「つながり」を 大切にした活動に力を入れていきたいと考えています。



イオンモール労働組合 中央執行委員長 中村 澄

From AEON MALL

社員を縛るためではなく「守るため」に制度や規定を整備

2007年の旧ダイヤモンドシティと合併直後は、 社風やモールの運営管理などさまざまな部分で違い があり、社員はとまどいを感じていましたが、啓発や 制度の構築を経て、2009年度には「ひとつの会社」 である実感がもてるようになっています。

2010年以降に課題となるのは、グローバルな人材育成です。すでに出店している中国では、成長が日本の3倍のスピードである一方、現地社員の育成に

は日本の3倍の時間がかかると感じています。海外ならではのスピード感を意識しながら、現地での採用・育成も積極的に進めていかなければなりません。

また、今後社会問題となる介護のためには、勤務地 限定・転居停止の制度などを活用しながら、社員を 支えていきたいと考えています。

> 管理本部 人事·教育部長 坪谷 雅之



イオンモールの成長の原動力である テナントさまをはじめとするパートナーさまのために



広くとられた従業員用の休憩スペースと、専用のコンビニエンスストア (イオンモール大和郡山)



従業員用にも、多機能なトイレを設置 (イオンモール大和郡山)

働きたいモール ナンバー 1をめざす

テナント従業員をはじめとしたイオンモールで働くすべての従業員は、全国で約11万人にものぼります。大型のモール内で働く人は総勢3,000人以上になり、成長をともに支え合う原動力であると強く認識しています。

テナント従業員がより快適に働ける環境づくりはイオンモールの責務です。各モールにはテナント従業員がゆっくり休める十分な広さの休憩スペースを設けるほか、従業員専用のコンビニエンスストアを設置するモールも順次増やしています。休憩時間を有効に利用し、リフレッシュすることは、気持ちのよい接客につながる大切な要素であると考えています。

また、一部のモールで発生している慢性的な人材不足への対応や、不法就労の外国人労働者を採用時に撲滅する取り組みは、本部主導で推進する課題として認識しています。

加えて、お客さまだけではなく、テナ ント従業員からも質問や意見、提案を集 める投函ボックスを設けています。日々 現場で働いているからこそ見える改善・ 要望点などは貴重な意見であり、各GM は提案に回答するとともにモールの運 営に反映しています。たとえばイオン モール千葉ニュータウンでは、休憩室 の設備に対する要望を受け、マッサー ジチェアを導入したり、給茶機のお茶 の種類を増やすなどの改善を行いまし た。また、お客さまが選ぶ「スマイルマ イスター の選定ポイントであるお客 さまからのお褒めの言葉をテナント従 業員に配布したことで、モール全体のモ チベーションアップにつながりました。

イオンモールは「働きたいモールナンバー 1」を掲げています。これからも どこよりも働きやすく、働きがいのある 職場づくりをめざします。

COLUMN

お客さま応援のセールは、モールの活力の源にもなりました

モールで働く従業員にとって、多くのお客さまにご来店いただいてモールがにぎわっていること、これにより売上が向上することが何よりの活力になります。全国の各モールで2009年12月に開催したセール「いきなり値下げの5日間」や1月の初売りなどは、ショッピングにお越しいただくお客さま満足を満たすだけでなく、テナントも元気にするための施策としても大きな効果がありました。



テナント従業員の 意識向上のための取り組み

イオンモールでは、テナント従業員 は、日々直接お客さまと接するため、安 全をより強く意識し、お客さまにご安心 いただきたいと考えています。たとえば、 モールで防災訓練を行う際には、テナン ト従業員も参加して避難誘導や消火活 動を体験します。また、インフルエンザ 対策として体調管理のチェックシート を提出するほか、飲食店のテナント従業 員には定期的な検便も義務づけていま す。これらは、テナント従業員の体調管 理を万全にすることがお客さまの安全に つながるということの実践です。

毎月11日の「イオンデー」に行う地域 清掃「クリーン&グリーン活動」への参 加や、ごみの分別教育も行い、環境意識 も醸成しています。

また警備や清掃などのパートナーさ まにも、強い責任感をもって、親切・丁 寧かつ誠実にお客さまと接することが できるよう、教育しています。

従業員の成長を

個々のテナント従業員のスキルアッ プも、イオンモールにとって重要な取り 組みです。

昨年に引き続き「第2回イオンモール 接客ロールプレイングコンテスト」を 開催。11月には全国49モールの地区 大会代表による決勝大会を行いました。 お客さま役を相手に、お迎えからお見送 りまでの一連の接客を競いました。日 頃の接客対応を発表することで、従業 員のサービスマインドやモチベーション 向上をめざしています。

各モールでは休憩室でテナント従業 員同士が親しくなり、情報交換を行う風 景が日常的に見られます。加えて、モー ル全体で一丸となって施策を進めるた めに、テナントさまによる「出店者協議 会」を定期的に開催し、情報共有の機 会としていただいています。

このような活動の蓄積が、テナント従 業員、そしてモール全体の成長を支える 大きな原動力になっています。

促すための施策

「クリーン&グリーン活動」 では、モールの周りや近隣 の公園、公共施設周辺など を清掃。







「第2回イオンモール接客ロールプレイングコンテスト の様子

「第2回 イオンモール 接客ロールプレイングコンテスト」

受買者一	'見	
イオンモール 大賞	イオンモール宮崎 「INGNI」	吉川 尚子さん
準優勝	イオンモール大和 「ジュエリーツツミ」	斉藤 祐子さん
審査員 特別賞	イオンモールりんくう 泉南 「ザ・ダイソー」	鈴木 陽子さん
	イオンモール川口 キャラ 「Reiri dea」	中村 有李さん
	mozo wondercity [AMO'S STYLE]	小谷 愛さん
	イオンモール倉敷 「axes femme」	吉野 留美子さん
	イオンモール熊本 クレア 「CLOSE-UP」	塩宮 彩さん
	イオンモール堺北 花田プラウ 「Right-on」	内 三恵さん
優秀賞	イオンモール広島 府中ソレイユ 「AMO'S STYLE」	山崎 陽子さん
	イオンレイクタウン KAZE 「TOP to TOP」	伊藤 正俊さん
	イオンモールつがる柏 「平安堂薬局」	津島 由香子さん
	イオンモール秋田 「ヴァン・ベール」	本間 歩さん
	イオンモール浜松志都呂 「プラサカプコン」	篠原 敏さん
	イオンモール成田 「めんめ家」	吉井 めぐみさん
	イオンモール橿原アルル 「タリーズコーヒー」	堀川 加奈さん

COLUMN

課題だった「お客さま理解力」が評価されて努力が報われました

「今はネットで簡単に、楽にお買い物ができるようになりましたが、お 客さまと共感しあえるのは人間だけであり、接客ではそれがいちばん 大切なことだと今回のコンテストを通じて改めて感じました。また、 大賞受賞でその点が評価されたこともうれしく思います。接客には 到達点や答えはなく、基準がわかりにくいですが、このような場を与 えていただき、接客に自信をもつこともできました」



第2回イオンモール接客ロールプレイングコンテスト イオンモール大賞 イオンモール宮崎 INGNI 吉川 尚子さん

ショッピングモールにおける環境への取り組み

ショッピングモールの開発・運営は、資源やエネルギーを大量に消費します。

イオンモールはその重要性を認識し、美しい環境を次世代に引き継ぐ「エコモール」づくりを進めています。

新しいエネルギーへの転換



排水の 処 理

p29

浄化槽 中水の利用 58,000m3 3.7倍

中水の利用 **2**15,470_m³

下水道対応がない地域にモールを出店する場合は、浄化槽を設置し、一部 渇水地域で中水利用を拡大しています。また、下水道がある地域でも除害 施設で排水処理しています。あわせて日常的な厨房グリストラップの清掃 などは各テナントさまに積極的に実施いただいています。

2006年

除害施設 10基

2009年

除害施設 15基

生ごみ処理 機

発生

2003年

11基減 爆発事故

2009年







2003年、イオンモール大和 (当時のイオ ン大和ショッピングセンター) で生ごみ 処理機の爆発事故が発生しました。事 故以来生ごみ処理機の停止・廃止を進 め、生ごみ処理は、廃棄物処理業者お よび地域の再生利用事業者と連携し適 正に回収・処理を行っています。

廃棄物計量システムの導入

駐車場

2006年

16モール増 17モール導入

33モール導入

2009年



各テナントさまからの廃棄物を日々計量する システムの導入を各モールで進めています。 計量することにより排出量を実感し、少しで も廃棄物を減らしていこうというテナント従 業員の環境意識醸成にもつながっています。



-

CO2排出量

2006年 **285,602**t-CO₂

0.7%增

2009年 **287,649**t-CO₂

年々、新しいモールがオープンしていますが、CO2排出量はほぼ横ばいを維持しています。これは、新規開店や既存モールのリニューアルのときに積極的に省エネ設備の導入を行うとともに、自然エネルギー設備の導入も進めたためです。また、自家発電などエネルギー消費やCO2排出量の大きい設備は、段階的に廃止に取り組んでいます。

49モール

2008年 2009年

45モール

2007年

51モール

モール数の推移

42モール

2006年













•

2006年 1,404,461本

331,678本增

2009年 1,736,139本



ックヤード

建物や駐車場のグリーン化

屋上緑化や壁面緑化などを設計時から導入するモールを増やしています。 周囲の景観 への配慮だけでなく、夏季にモールの室温を下げる役割もあります。

駐車場やモール周辺にも植栽を進めており、 定期的なメンテナンスも欠かしません。 緑に 囲まれた中でショッピングを楽しめる空間づ くりをめざしています。

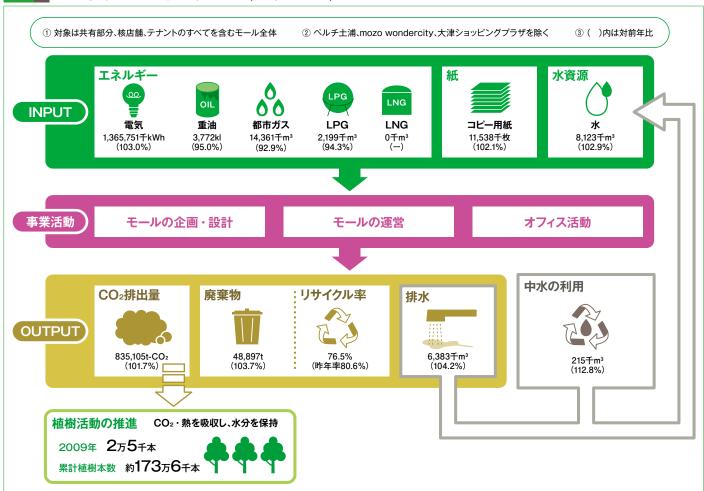






イオンモールの環境負荷把握と 環境活動への取り組み

data 01 2009年度 インプット/アウトプット (国内49モール)



data 02 2010年度に取り組む著しい環境側面

duta of 2010年及に取り担む者の 次先 原田			
業	務	環境側面	
		モールで電気を使う	
現		モールで空調設備を使う(電気)	
在業	直接	テナントさまが電気を使う	
務	<i>.</i> ~	モールで照明を使う	
		モールから排水する	
夏		(事故・緊急事態)CO₂排出量(=エネルギー使用量)が 2006年総量より増加	
哥	事 (事故・緊急事態)モールからの排水の水質値が法定基準値を		
(事故・緊急事態)床清		(事故・緊急事態)床清掃後の剥離剤を側溝へ流す	

data 03 事業に関わる主な環境関連法規制

	場面	関連法規制		
モール	の立地に関して	大規模小売店舗立地法・環境アセスメント法		
モール	の建設・増改築時	建設リサイクル法		
事業か	ら出るごみについて	廃棄物処理法		
モール	からの排水について	下水道法·浄化槽法·瀬戸内海環境保全特別措置法		
モール	のエネルギー使用について	地球温暖化対策推進法・省エネ法		
₽8 ≘Л	重油タンク	消防法·水質汚濁防止法		
関備で	常用発電機・ボイラー・冷温水発生器	大気汚染防止法		
()-	送風機・クーリングタワー	騒音規制法		
使用済み処理時	バッケージエアコン・ 空調用チリングユニット・ ガスエンジンヒートポンプ	フロン回収破壊法		
R済み処理 設備等の	冷蔵庫・エアコン・洗濯機・テレビ	家電リサイクル法		
時	社用車	自動車リサイクル法		

イオンモールの 環境マネジメント

2007年8月、2社の合併に伴い、同年11 月にISO14001環境マネジメントシステ ムを統合し、認証されました。

全国のすべてのモールと各部署の CSR活動の報告や目標管理を効率的 に進めるために、2005年3月から「SR (Social Responsibility) システム」の 運用を開始。エネルギー、廃棄物、資 源などの目標管理の進捗のほか、募 金・社会貢献活動も集計・管理可能で、 2009年度までに全社に導入済みです。

各モールのSRシステム集計データ P38-41

開発段階から取り入れる 環境配慮

モールの開発を行う際には、開発地 域を選定する段階から、地域の生態系 や生物多様性に影響を与えないように 事前の調査を実施。

設計時には省エネルギー型設備や自 然エネルギーの導入、リサイクル資材の 採用なども含めた環境負荷の低いモー ルづくりを念頭に置いています。

既存のモールをリニューアルする際 にも、環境負荷を低減できる設備の導 入を積極的に進めています。

また、電車など公共交通機関をご利 用いただけるモールも増えました。加 えて路線バスの利用をお願いすること で、ご来店の環境負荷の削減も考慮し ています。

敷地内の水田で、希少な多年草「ミズタカモジ」の保 全とともに、お客さまと田植えも行いました(イオンモー



自然光が入りやすくなるよう天井近くに窓を設けたほ か、照明をLED化することで消費電力を削減(イオン モール大和郡山)

COLUMN

イオンモール草津 CASBEEでSランクを取得

2008年11月にオープンしたイオンモール草津は、 建設前からの徹底した調査と、最新の環境設備の導 入などの環境保全への対応により、CASBEE(建築 環境総合性能評価システム) における最高ランクのS 評価 (設計段階)を獲得しました。その後、2010年 2月には、財団法人 建築環境・省エネルギー機構の 「第3回サステナブル建築賞」で商業施設として初め て審査委員会奨励賞を受賞しました。



From AEON MALL

体系的なノウハウの共有が、今後の環境活動の課題

私は代表環境管理責任者として、イオンモールの 環境活動全体を把握し、活動の方向づけをしていま す。そのなかで感じているのは、環境活動には「ハー ド」と「ソフト」の両面があるということです。新 たな設備を導入したり、古い設備を更新するのが 「ハード」の取り組み。「ソフト」は運転管理部分で、 効率よく設備を稼働させるために、各モールでさま ざまな工夫を重ねています。

設備投資とそれに伴うこまかな改善活動は、日が 経つにつれて「やって当たり前」という意識が従 業員に定着しました。独自に取り組んだCO₂削減手 法を他のモールに伝えていく仕組みが全体として弱 かったと認識しています。蓄積したノウハウを共有 化することが今後の急務と考えています。

> 専務取締役 営業本部長 山中 千敏

環境への取り組み



太陽光発電を設置したモールでは、発電量と削減した CO2量を館内のボードに表示(イオンモール日の出)



27年前から導入している屋上緑化。景観だけでなく、 夏季の室内温度を下げる効果も実感できる(京都ファ ミリー)



夜間の照明も高効率で省エネルギー型のLEDを使用 (イオンモール大和郡山)

地球温暖化物質の削減をめざして

低炭素社会への移行が全世界的な課題となっている今、CO₂排出量を減らしていくことがリーディングカンパニーとしての責務です。

推進体制を強化するために、2005年 2月に設置した「省エネ委員会」をさら に強化し、2008年3月よりCSR推進部内 にCO2対策グループを設置するととも に、開発本部、建設部、営業本部、管理本 部の全社にまたがる「CO2削減委員会」 を組織。中長期計画の達成に向けて、毎 月の成果を確認し、設備投資策の検討 を進めています。

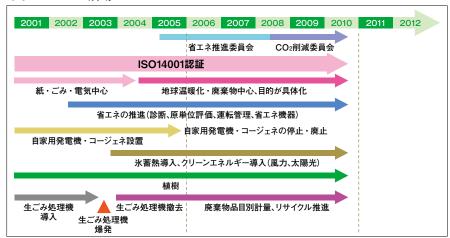
2009年度の全社CO2排出量は287,649 t-CO2で、2006年度(285.602t)比で2.047 t-CO₂超過しました(右ページ表参照)。 モール数は9モール(21.4%)増に対して0.7%増となっています。これは新規開発時に積極的に最新設備を導入したほか、既存モールでもエネルギー関連設備の検証・改善を行い、設備の運転管理などのマニュアルを配布し、従業員の意識改革に取り組んできた結果です。

このような環境への取り組みが評価され、2010年3月に三菱UFJ信託銀行より最高ランクの環境格付を取得し、同行より無利子での資金調達が実現しました。

また、館内の温度設定ではお客さま のご理解・ご協力もお願いしています。

エコステーション ▶ P31

イオンモールの活動



From AEON MALL

つねにイオンモールならではの 「新しいモールづくり」 にチャレンジ

モールの開発にあたっては、エネルギーコストをいかに下げるかが環境負荷低減に大きな影響を及ぼします。省エネ設備の導入はもちろん、太陽光や外気の有効利用、さらにその他の自然エネルギーを最大限活用するように設計することが重要です。これまでのモールの設計は担当者の考えや経験が反映され、属人的になっていました。2010年度は、エコ施設計画、ユニバーサルデザイン、管理運用の3項目をガイドライン

として明文化し、全社で統一を図る予定です。

今後は、中国やASEAN諸国など日本とは異なる 条件をもつ場所へ出店していく考えですが、その際も モールビジネスで一歩先を歩めるよう、住民の皆さま にご理解・ご協力をいただきながらともに発展する存 在でありたいと願っています。

常務取締役 開発本部長岩本 製



水資源を大切に 活用するために

世界的に見ると、水資源の保護は非常に重要な課題のひとつです。中国でも 開発を進め、今後さらなる海外展開を計 画しているイオンモールにとって、水の 豊富な日本とは違い、無視できない課題 であると認識しています。

イオンモールでは、①飲用としての水質の保持、②水使用量の節減、③排水の管理、を重要テーマとして位置づけ、取り組みを進めています。

2009年度の水使用量は325万tで、 2006年度比で44万8千t (16%) 増え ました。

排水対策では、多くの飲食店での 個々の排水管理が重要となります。 モール内の飲食店厨房内にはグリストラップを設置していますが、これは放置すると油脂分や汚泥の除去が困難になり、さらには悪臭や害虫発生、配管の詰まりの原因となります。そこで飲食店厨房で毎日のグリストラップ清掃と定期的な水質測定を行うとともに、ハンドブックやポスターで日常的に意識向上も図っています。

また、排水の除害設備の運用方法や 規模の検証を重ね、設備の導入・運用 の基準も定めています。

浄化槽を設置しているモールのうち、 特に全国渇水地域を中心に、水洗トイレ へと水を再利用する「中水利用」も増え ており、水使用量の削減に効果を上げて います。

飲食店テナントさま向けに、 廃棄物・排水の経路を示し たマップを掲示。日常的な清 掃や無駄の削減を啓発

CO2排出量の経年変化

年 度	単位:t-CO2		
2009	287,649		
2008	283,447		
2007	281,133		
2006	285,602		

排出係数0.555。モール共用部分



グリストラップの清掃の様子 (イオンレイクタウンkaze)

水使用量の経年変化

年 度	単位:t		
2009	3,250,520		
2008	3,098,348		
2007	3,264,911		
2006	2,802,169		

上水、中水、工業用水、井水含む。モール共用部分

From AEON MALL

コスト削減と経営課題の解決の両輪で環境活動に取り組む

モールの運営における環境活動で重視しているのは、 省エネルギー、水、廃棄物の課題です。 廃棄物について は、各モールで実施している分別計量がテナント従業 員の動機づけになっていると感じます。

環境への取り組みは経営課題と密接に関わっています。省エネルギーは費用削減につながりますし、飲食店テナントの生ゴミのロスは経営損失につながります。環境への負荷とコストの課題、両方の視点で進

めることが重要です。

今後の課題は、各モールで行っている改善事例の水平展開です。担当者が知り合い同士のモール間では情報共有ができていても、全社的には広がっていない事例もあるのが現状です。積み重ねてきたノウハウを開示するデータベースなどを整備し、共有に役立てることが必要と考えます。

取締役 SCサポート部長 相馬 勝



テナントごとに廃棄物を17品目に分類、計量できる



分類された廃棄物は、品目ごとにまとめられ、廃棄物処 理業者に引き渡す



モール内の分別ごみ箱 (すべてイオンレイクタウンkaze)

「見える化」による 廃棄物削減

廃棄物の削減では「何を、どこで、どれだけ廃棄しているか」を明らかにすることが重要です。各モールでは、廃棄物を基本17品目に分別したうえで品目ごとに計量するシステム(「計量システム」といいます)の導入を全国で進めており、2009年度までに33モールで稼働しています。

data 01 2009年度の廃棄物排出総量 とリサイクル率

1	生ごみ	10,844t	70.2%
2	段ボール	14,205t	100%
3	雑芥	13,986t	47.2%
4	廃プラスチック	2,422t	98.7%
5	ビン	309t	97.3%
6	缶	514t	100%
7	発泡スチロール	102t	100%
8	廃油	1,043t	100%
9	紙類	1,875t	100%
10	粗大ごみ	203t	70.4%
11	その他不燃ごみ	924t	76.1%
12	廃蛍光灯	43t	65.3%
13	廃電池	7t	72.8%
14	割り箸	117t	100%
15	廃アルカリ、剥離剤	51t	86.4%
16	汚泥	1,740t	69.3%
17	廃エンジンオイル	_	_
全社	全社リサイクル率 (サーマルリサイクル含む)		

※雑芥:これ以上分別できないごみ

テナントごとに各品目を計量した後、計量済みのシールを貼り、品目ごとの保管場所にまとめるという流れです。今後はテナントの業種別に廃棄物の品目を分析したり、排出量のデータをテナントにフィードバックすることで、さらなる廃棄物削減や経営効率の向上が期待できます。

分別されたごみのうち、リサイクル可能なものについては極カリサイクルに回し、各品目ごとにリサイクル率をまとめ、2009年度は全社で76.5%でした。

同時に、廃棄物処理法対策として、廃棄物業者さまと契約書や許可証の期限 切れを未然に防止できるよう、SRシステムでアラート事前告知するよう改善 しました。

また、オフィス活動でもムダの削減に取り組んでいます。特に使用量の多いコピー用紙については目標管理の項目として定めており、全社的に削減を進めています。2009年度の使用量は1153万8千枚で、2008年度比で23万8千枚(2.1%)増えてしまいました。

data 02 コピー用紙使用量の経年変化

年 度	単位:枚	
2009	11,537,968	
2008	11,299,899	

From Stakeholder

新鮮な気持ちで廃棄物処理業務に当たることが、業界によい影響力をもたらします

これまでイオンモールで廃棄物処理法のセミナーを数多く実施し、全社員の3割近くが受講されています。廃棄物管理を長年担当した方でも法律を体系的に学んだことがなかったり、過去の知識や経験が業務改善を妨げる要因となることもありますが、イオンモールでは多くの若手社員が真剣にセミナーを受けていらっしゃった点が印象に残っています。

廃棄物の保管場所整備や細分化された計量システ

ムなど、世界的に見ても先進的な取り組みを積極的 に展開していることも特徴です。これらのことは、テ ナント単体ではなかなかできません。本格的な効果 が出るのはこれからだと思いますが、先進事例として、 また海外のモールでの取り組みも含めて、今後の展開 を楽しみにしております。

> 株式会社アミタ持続可能経済研究所 環境リスクアドバイザリー室長

> > 堀口 昌澄氏



環境コミュニケーションの展開

各モールには環境コミュニケーションスペース「エコステーション」や「エコベンチ」などを設けています。太陽光発電の運転状況・モール内の環境設備などや、モールでのさまざまな環境への取り組みをお伝えするとともに、エコバッグ持参、リサイクルなどお客さまのご協力をお願いする活動も紹介しています。

最寄り駅との間でバス便を運行しているモールでは、年間の乗車人数をカウントして乗車率向上の目標管理を行い、2009年度は25モールの合計で対目標97.8%となりました。結果を分析す

るとともに、公共交通機関の利用をお客さまにお願いし、地球温暖化防止に努めます。

また、モールの一員として持つべき環境意識・行動指針をまとめた『えこのおと』を全テナント従業員を対象に配布し、ごみの分別や省エネなどの基本を教育しています。また一人ひとりに環境家計簿をつけることも呼びかけ、職場だけでなく家庭でも環境を意識して生活できる人間として成長できるよう期待しています。





各モールに、環境情報をお客さまにお知らせする「エコ ステーション」や「エコベンチ」を設置

世球温暖化防止への 取組みとして、全館の 照明及び空調などを 一部調整しています。



お客さまへのご理解をお願いするポスター (左) や、社 員向けに配布している冊子 (右)

COLUMN

テナントさまのCO2削減コンクールを実施しました

各テナントさまにも環境への意識を高めていただくために、6月の環境強化月間に「CO2削減コンクール」を実施しました。各モールでCO2削減の宣言書をテナントさまごとに提出していただき、結果を集計・ランキングし、上位入賞のテナントさまを表彰しました。

テナントさまからは「この機会だけで終わらせず、CO₂削減を心がけていきたい」など前向きな感想が寄せられました。



From Stakeholder

現時点での熱意と着実な取り組みを、将来につなげていくことを期待します

低炭素化社会に向かう世界の中で、イオンモールは CSRや気候変動に対する活動方針を見直しされていますが、その作業のお手伝いをさせていただいています。これまで行ってきた活動の分析や社員の皆さまとの議論から、環境に対して最善を尽くしたいという熱意が感じられ、また実際にその時代でのベストな技術を採用されたり、最善と思われる活動を行っています。まさに敬服に値する取り組みといえるでしょう。 一方、将来に対する分析や、そこから来るリスクの 特定に関して改善点があるということが、分析結果に 表れています。これらの結果を踏まえ、近い将来訪れ るであろう低炭素社会にあって、サステナビリティの 牽引役となっていかれることを期待しております。

> イー・アール・エム日本株式会社 サステナビリティマネジメントチーム チームリーダー **仲尾 強**氏



未来に向けた取り組みの芽 01

これまで培ってきた思いや技術を 海外展開で発揮します

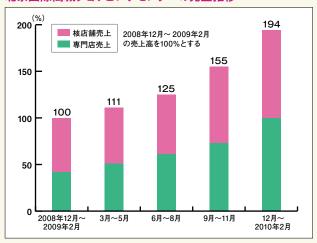
出店から1年半、北京国際商城の現在

2008年11月、中国・北京に、「イオン北京国際商城ショッピングセンター」がオープンしてから約1年半が経過しました。オープン前は「こんな郊外までお客さまは本当にご来店されるのか?」という疑問の声も聞かれましたが、市内の駐車場不足に悩まされたお客さまにとって3,000台の無料駐車場や、日本のテナントが約3分の1という他にはない魅力が受け入れられ、今では郊外型モールとして認知され注目を集めています。

オープン当初、テナントさま開店率は約60%でしたが、1年後には100%となり店舗揃えも充実しています。さらに2009年9月にはシネマ・コンプレックスもオープンし、北京市内のシネコンでも上位クラスの人気スポットとなっています。

2010年度も売上は順調に推移し、2月度は春節(旧正月)もあり、開店以来最高の売上となりました。

北京国際商城ショッピングセンターの売上推移





環境活動に積極的な動きを見せる中国

近年、中国では環境関連法規制が強化されるとともに、NPO・NGOによる監視も厳しくなっています。都市ごとの汚染状況や違反企業の情報がネット上に発表され、不買運動に発展するなどの動きも見られ、持続可能な開発への関心が高まっています。

日本の取り組みを標準として導入する

環境汚染が意識されはじめたことで、環境対策の具体的な ノウハウが求められています。イオン北京国際商城ショッピ ングセンターでは、日本国内のモールで作り上げた環境活動 のルールや手法を導入。現地社員の環境に対する意識も高 く、中国独自の法規制などを加味しながら、環境ナンバーワ ンモールを目指して取り組んでいます。

中国・天津に海外2号店を出店

2010年秋にオープン予定の「イオンモール天津 TEDAショッピングセンター」の建設が進んでいます。 総合開発エリアである天津経済技術開発区(TEDA)の 南側駅前に位置しています。



イオン北京国際商城ショッピングセンター

開店: 2008年11月 所在地: 北京市昌平区北清路1号 商業施設面積: 91,000m² 駐車場: 3,000台

モール内の設備



モール内のさまざまな 環境活動をパネル展示 で紹介しています。





ごみの分別・リサイクルも 積極的に推進しています。

飲食店テナント (味千ラーメン)の水の管理







水道の蛇口からの水 (①) は、浄水器 (②) で浄水したのちに調理に使用。 有料のドリンクバーでは、再度浄水した水 (③) を提供しています。

テナントさまとともに進める活動



中国の水事情を踏まえ、浄水器を販売する テナントさまも出店いただいています。



クリーン&グリーン活動も、日本と同様に 開催しています。

その他の活動



お客さまとともに植樹祭を実施し、緑を育てています。



ベトナムに事務所を開設

海外での事業展開をさらに拡大するため、中国に続いて成長が期待されるベトナムでのモールビジネスに向け、2009年11月、ホーチミン市にベトナム駐在事務所を開設しました。

ベトナムは40歳以下が8割を占める非常に若い国で、街は活気にあふれています。ベトナムの発展スピードは勢いがあり、大きな潜在力をもった市場と見ています。また、2009年1月には、小売業においても外資100%による現地法人設立が可能となりました。

この好機を捉え、日本で培ったモール開発・ 運営ノウハウを活かして、ベトナムのお客さまに 感動を与えるようなモールを一日も早くオープン したいと考えています。





歴史的な街並みを残しながら、経済成長の活気にあふれるホーチミン市



ベトナム駐在事務所長中川 哲以

現在は、政府機関を訪問したり、物件情報の収集、ベトナムにおける技術基準や法規制などの知識の習得、開発案件に関する具体的な協議や交渉を行っています。文化や言葉・風習がすべて違う国ですので、これから困難なことがたくさんあるでしょうが、非常にやりがいのある仕事だと思い取り組んでいます。

未来に向けた取り組みの芽 02

モールビジネスのノウハウを活かし 新しいビジネスを展開します

「ニュービジネス推進本部」のチャレンジ

イオンモールはこれまで、モール専業のディベロッパーとして、大都市近郊から地方都市郊外までさまざまな立地に対応したモールの開発を行ってきました。また、運営管理においても幅広い経験を積んでいます。

そうした実績を活かし、今後の成長性を支える新しい事業を 創造しようとする「ニュービジネス推進本部」を2009年5月に 設置しました。経験豊富なメンバーを集め、これまでのノウハ ウをベースに、商業施設の付加価値向上を目指した活動が始まっています。

ニュービジネス推進本部はふたつのセクションからなります。 「ニュービジネス開発部」では、イオンモール以外の商業施設の 運営・管理を受託し、再生・再開発を行うプロパティ・マネジ メント (PM) 事業などを手がけています。また、ライフスタイ ルセンターやアウトレットなど、従来のイオンモールのビジネス とは異なる業態の展開についても研究を始めました。一方「モー ルビジネス開発部」では、既存のモールの活用法を検討してお り、モールのスペースを提供してメーカーの新製品展示会・イ ベントを開催するなど、賃料以外の収入増加の方法を模索して います。

こうした新たな取り組みが、地域にさらなる活気をもたらす とともに、イオンモールの次の成長の柱を築く礎になると考え ています。

モールビジネスの事例 「Mercedes-Benz A-Class・B-Class」

モールビジネス開発部と各モール間、広告代理店(電通00H局) さまとのスムーズな連携のもと会場提案を行った結果、2010年3月 ~6月にかけて、メルセデス・ベンツ日本さまが展開する全国20会場 強の商業施設を利用した車両展示キャンペーンのうち、15会場をイ オンモールで実施いただくこととなりました。

メルセデス・ベンツ日本さまは2008年にも車両展示を実施されており、各地域の主力商業施設でのプロモーションが功を奏して潜在見込客の創出に成功。大量のアンケート獲得だけでなく、実際に商談を成功させた会場もあったとのことで、今回のキャンペーンにも高い期待を寄せていただいています。

メルセデス・ベンツ日本さまの車両展示キャンペーンにより、イオンモールにとってはスペース活用による収益のみならず、マス媒体などでの新型車両PRと連携したキャンペーンにより、ご来店いた

だいたお客さまへ鮮度の高い 情報を発信できるという間接 的な効果が望める結果となっ ています。



2008年の車両展示キャンペーン 壁面広告(イオンモール大和)





2010年3月のキャンペーンの様子 (左・イオンモール筑紫野/右・イオンモール羽生)

From AEON MALL

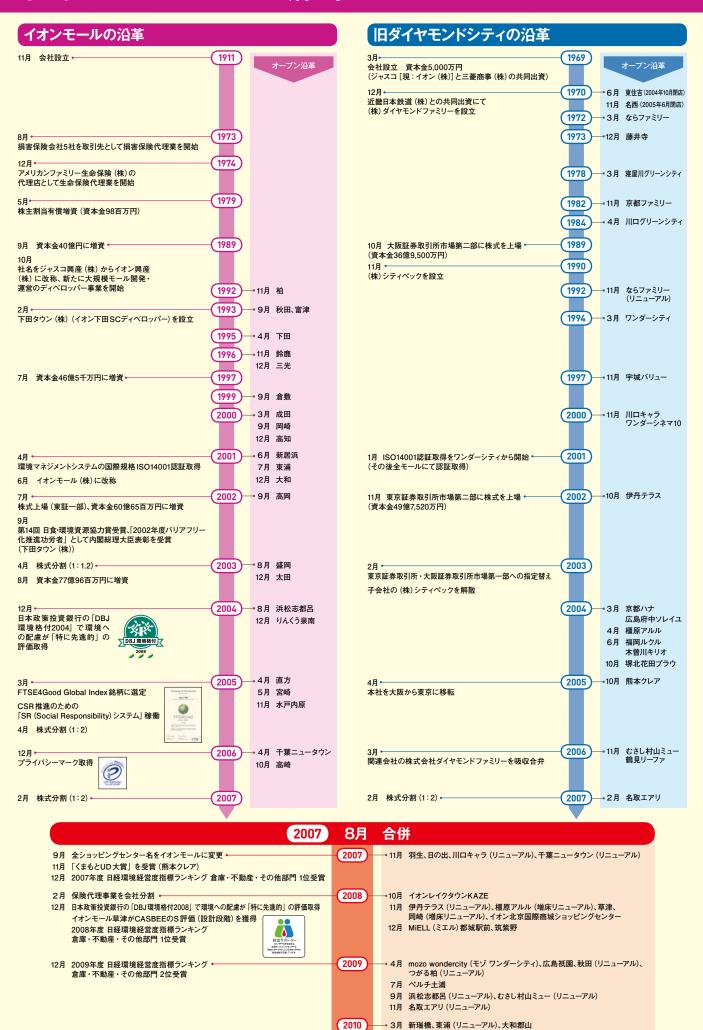
モールを「メディア」として新しい展開を模索

全国で50を超えるモールを開発・運営してきたイオンモールの強みは「開発力」「テナントリーシングカ」「営業力」にあると思っています。蓄積されてきたそうしたノウハウを、スピンアウトして事業として確立していこうというのが「ニュービジネス推進本部」です。 集客力のあるモールは広告・宣伝に向く「メディア」と考えられる一方、確定申告や献血など地域でのご利用の場としても最適です。モールが共通に持っている 「強み」から活用できるものを掘り下げ、可能性を探り たいと考えています。

次の課題として、ネット事業の検討を開始しました。 すぐに効果が上がるものではないですが、今後検討を 進めていきたいと思います。

> 常務取締役 ニュービジネス推進本部長 **小西 幸夫**

イ オ ン モ ー ル の 沿 革



2009年度 SR会計報告

イオンモールでは、2002年度よりSR (Social Responsibility=社会的責任) 会計を導入し、環境保全活動や社会貢献活動のコストを定量的に把握し、CSR経営における指標のひとつとしてきました。

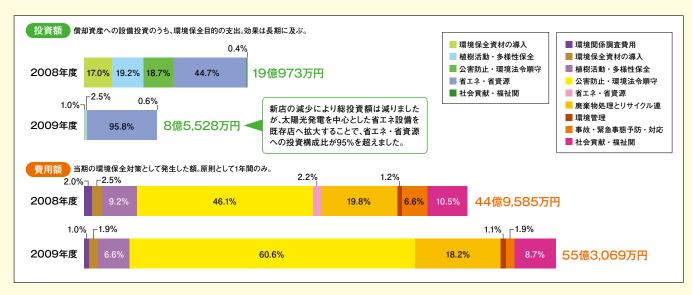
2009年度については、PM物件である mozoワンダーシティ、ペルチ土浦を除いて、 新規に開店したモールはイオンモール広島祇 園の1モールでしたが、新規4モール、大型増 床3モールを開店した2008年度とほぼ同額である63億8596万円を計上しました。特に太陽光発電設備については、2008年度は2億7477万円の投資でしたが、2009年度には既存店への積極的な投資により、前年の2.5倍を超える7億3012万円を計上しました。

また、省エネおよび環境負荷低減のための 設備メンテナンスを含めた設備運転管理の徹 底と、空気環境測定を確実に実施するなど公 書防止・環境法令順守にかかわる項目への投 資が昨年よりも9億2264万円増加し、33億 5223万円計上しました。

今後は既存店の活性化を積極的に行ってい く方針であり、同時にCO₂削減効果の高い空 調設備の高効率化を目的に投資計画を策定し ています。

環境保全コストの主な内訳

		投 資			費用		(単位:千円
	2008年度	2009年度	前年比	2008年度	2009年度	前年比	
環境関係調査費用	0	0	-	90,536	53,145	58.7%	大店立地法届けのための調査、 交通量調査、環境影響評価等
環境保全資材の導入	324,232	8,324	2.6%	110,435	103,628	93.8%	リサイクル建築資材、エコ消火器、 再生OA用紙等
植樹活動・多様性保全	366,820	21,779	5.9%	414,445	367,495	88.7%	植樹祭、育樹祭、屋上・壁面緑化、植栽管理等
公害防止・環境法令順守	357,000	0	0.0%	2,072,588	3,352,228	161.7%	大気汚染防止、水質汚濁防止、 施設メンテナンス等
省エネ・省資源	854,044	819,747	96.0%	98,794	232	0.2%	太陽光発電、LEDサイン、 ハイブリッドカー導入等
自然エネルギー	274,770	730,118	265.7%	_	_	_	太陽光発電など
廃棄物処理とリサイクル	0	0	ı	887,968	1,007,572	113.5%	廃棄物処理・管理費用
環境管理	0	0	-	53,722	59,728	111.2%	ISO活動推進、教育、情報発信等
事故・緊急事態予防・対応	0	0	ı	294,678	103,101	35.0%	地下タンク検査、消火器・警報機、 新型インフルエンザ対策等
社会貢献・福祉関連	7,633	5,429	71.1%	472,685	483,555	102.3%	身障者駐車場、AED設置、 イオン1%クラブ拠出金等
計	1,909,729	855,278	44.8%	4,495,851	5,530,685	123.0%	



期間:2009年2月21日~2010年2月20日

対象: イオンモール(株) ISO14001適用範囲内とする

- ① 複合コスト・・・・・・環境目的以外のコストと結合している場合についても、原則として全額計上しています。
- ② 人件費・・・・・・・「モール施設メンテナンス」「モールでの廃棄物処理とリサイクル」は人件費を計上しています。
- ③ 減価償却費・・・・・減価償却費は計上していません。



第三者意見

IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表 川北 秀人氏

IIHOE

「地球上のすべての生命にとって、民主的で調和的な発展のために」を目的に 1994年に設立されたNPO。主な活動は市民団体・社会事業家のマネジメント支援だが、大手企業のCSR支援も多く手がける。

http://blog.canpan.info/iihoe/ (日本語のみ)

当意見は、本報告書の記載内容、および同社の環境・開発・人事・ ニュービジネスの各担当役員へのヒアリング、およびイオンモー ル橿原アルルとイオンレイクタウンKAZEでの視察に基づいて 執筆しています。

同社のCSRへの取り組みは、施設の設計段階における環境やユニバーサル・デザインへの対応や、取引先であるテナントも実践する環境負荷の削減を中心に、他社のモデルとなる水準にあり、今後は、全社横断的なマネジメント・システムへと進化することが強く期待されます。

高く評価すべき点

- 「思いやり駐車場」や店内表示まで総合的なユニバーサル・デザイン (P16-17)と、自然エネルギー導入やグラスパーキング、 廃食油回収まで踏み込んだ環境負荷削減 (P24-30) を、設計から運用まで比類ない高い水準で実践していること。 中でも、イオンレイクタウンKAZEの表示と、イオンモール草津のCASBEE 「S」 ランク評価取得 (P27)は、特筆すべき実績です。
- 地域での災害時や、お祭りなど文化活動への協力や施設提供 を、積極的に行っていること (P16)。

取り組みの進捗を評価しつつ、 さらなる努力を求めたい点

- 空調の最適化や廃棄物の削減・再資源化など、各店における 工夫と努力が日常的に積み重ねられていることを高く評価しつ つ、今後は、そのノウハウが記録されるとともに、小集団活動や表 彰制度などによって他店とも共有されるなど、全社横断的なマネ ジメント・システムへと拡充されることを、強く期待します。
- 廃棄物の17品目分別 (P30)、接客技能の向上や地域清掃 (P23) などへのテナントの参加・協力を引き出す働きかけ、特に全テナント従業員を対象とした『えこ のおと』を利用した研修を高く評価しつつ、今後は、テナントによるCO₂や廃棄物などの環境負荷削減の工夫や努力を全国的に表彰・共有する制度を設けるなど、さらに主体的な取り組みが加速され、その結果が本報告書や『えこ のおと』で紹介されることを、強く期待します。
- 従業員の家族の介護を支援するために転居を伴う異動を停止する制度や、夏・冬の長期休日の取得の積極的な促進など、ワーク・ライフ・バランスの改善への取り組み (P21) を評価しつつ、今後の社会・市場の変化を視野に入れれば、女性や非日本人の上級管理職が大幅に増えることと、その実現に向けた育成・支援施策がさらに加速することを期待します。

Weth

川北氏には、イオンモール橿原アルルやイオンレイクタウンKAZEを視察いただきました







各ショッピングセンターの2009年度データ ① (2010年2月20日現在)

	+ 4		**************************************	EX+ () #L (())	1+1+1 (-1-)	従業員 ^{※2}		
エリア	店名	開店年月 	商業施設面積(m²) 	駐車台数(台)	植樹(本)	テナント従業員(人)	イオンモール社員(人)	
東北エリア	イオンモールつがる柏	1992年 11月	42,000	2,600	72,388	854	28	
	イオンモール下田	1995年 4月	53,000	4,000	50,675	1,710	31	
	イオンモール秋田	1993年 9月	67,000	3,800	43,127	1,751	30	
	イオンモール盛岡	2003年 8月	44,000	2,800	26,528	1,599	31	
	イオンモール名取エアリ	2007年 2月	(*1) 75,000	3,900	20,000	2,355	28	
	イオンモール太田	2003年 12月	62,000	4,200	54,549	1,925	30	
	イオンモール高崎	2006年 10月	60,000	3,700	50,000	2,261	33	
	イオンモール水戸内原	2005年 11月	71,000	4,000	49,988	2,495	33	
	イオンモール川口グリーンシティ	1984年 4月	(*1) 32,000	1,400	252	1,055	17	
	イオンモール川口キャラ	2000年 11月	(*1) 66,000	2,400	20,000	2,861	36	
	イオンモール羽生	2007年 11月	88,000	5,000	90,000	3,248	31	
関東・甲信越エリア	イオンレイクタウンKAZE	2008年 10月	80,000	2,300	50,000	3,399	35	
	イオンモールむさし村山ミュー	2006年 11月	(*1) 84,000	4,000	45,000	3,221	34	
	イオンモール日の出	2007年 11月	73,000	3,600	58,000	2,334	35	
	イオンモール大和	2001年 12月	33,000	1,900	20,849	1,707	26	
	イオンモール富津	1993年 9月	34,000	1,800	32,000	1,017	26	
	イオンモール成田	2000年 3月	71,000	4,000	46,000	2,576	41	
	イオンモール千葉ニュータウン	2006年 4月	83,000	4,000	14,000	2,647	36	
北陸エリア	イオンモール高岡	2002年 9月	64,000	3,600	44,726	1,810	31	
	イオンモール浜松志都呂	2004年 8月	65,000	3,500	38,116	1,982	35	
	イオンモール岡崎	2000年 9月	95,000	4,300	48,979	2,781	35	
中部エリア	イオンモール東浦	2001年 7月	61,000	5,000	25,327	2,149	29	
	イオンモール木曽川キリオ	2004年 6月	(*1) 69,000	4,400	12,000	2,231	27	
	イオンモール鈴鹿ベルシティ	1996年 11月	66,000	4,200	36,000	2,028	32	
	イオンモール草津	2008年 11月	86,000	4,300	20,678	3,029	29	
	イオンモール京都ハナ	2004年 3月	(*1) 40,000	1,600	11,000	2,041	25	
	京都ファミリー	1982年 11月	(**1) 24,000	700	_	1,004	16	
	イオンモール橿原アルル	2004年 4月	(*1) 84,000	5,000	25,000	3,505	32	
	ならファミリー	1972年 3月	(*1) 81,000	2,000	300	3,497	22	
近畿エリア	イオンモール藤井寺	1973年 12月	(*1) 20,000	600	_	857	13	
	イオンモール寝屋川グリーンシティ	1978年 3月	(*1) 29,000	700	3,267	681	17	
	イオンモール堺北花田プラウ	2004年 10月	(*1) 71,000	2,800	13,000	4,672	27	
	イオンモールりんくう泉南	2004年 11月	77,000	4,300	66,616	3,051	34	
	イオンモール鶴見リーファ	2006年 11月	(*1) 54,000	2,100	12,839	2,987	26	
	イオンモール伊丹テラス	2002年 10月	(*1) 57,000	2,600	30,000	2,771	26	
	イオンモール神戸北	2006年 11月	60,000	4,000	56,000	2,320	31	
	イオンモール倉敷	1999年 9月	72,000	4,500	70,000	2,645	31	
中国エリア	イオンモール広島府中ソレイユ	2004年 3月	(*1) 81,000	4,300	64,000	3,203	30	
	イオンモール広島祇園	2009年 4月	57,000	2,800	20,000	2,023	26	
四国エリア	イオンモール新居浜	2001年 6月	50,000	3,500	35,000	1,426	28	
	イオンモール高知	2000年 12月	59,000	3,100	23,896	2,153	32	
九州エリア	イオンモール福岡ルクル	2004年 6月	(*1) 74,000	5,200	30,000	2,714	35	
	イオンモール直方	2005年 4月	62,000	3,400	39,899	1,988	31	
	イオンモール筑紫野	2008年 12月	76,000	3,600	20,000	2,567	33	
	イオンモール三光	1996年 12月	36,000	2,500	36,708	754	22	
	イオンモール熊本クレア	2005年 10月	(*1) 71,000	4,500	50,000	2,749	27	
	イオンモール宇城バリュー	1997年 11月	(*1) 70,000	3,800	50,000	1,128	23	
	イオンモール宮崎	2005年 5月	77,000	4,000	56,432	2,393	29	
	イオンモールMiELL (ミエル)都城駅前	2008年 12月	33,000	1,700	8,000	928	19	

	防災協定	AED	クリーン&グリーン	献血		黄色いレシート
締結年月	締結先	設置台数	活動参加者(人)	参加者(人) 献血量(Q)		キャンペーン (円)
2006年8月	つがる市 (**3)	3	769	849	307	2,704,258
2006年7月	おいらせ町	4	675	536	201	3,679,283
2006年5月	秋田市	6	991	5,486	1,912	24,146,572
2006年8月	盛岡市	4	698	1,208	419	8,324,971
2007年1月	名取市	3	335	898	326	0
2006年7月	太田市	6	4,608	1,347	484	24,505,259
2007年11月	高崎市・(株)マイカルとの三者協定	4	1,181	1,950	721	27.102.445
2006年8月	水戸市	4	1,367	1,136	388	924,922
2006年11月	川口市	5	412	186	63	0
2006年11月	川口市	4	353	345	118	0
2007年10月	羽生市	7	1,668	2,875	975	21,884,926
2008年10月	越谷市	5	1,205	0	0	5,197,856
2006年9月/2007年7月	武蔵村山市/医療法人財団大和会 武蔵村山病院	6	321	359	124	0,101,000
2007年11月	日の出町・(株)マイカルとの三者協定	4	933	1,710	602	17.993.683
2006年4月	大和市	3	399	1,385	1,132	4,812,091
2006年8月	富津市	4	690	1,096	381	5.833.168
2006年8月	成田市	6	849	1,544	527	28,904,184
2000年8月	印西市	6	1,536	2,365	826	2,384,075
2007年3月	高岡市	3	732	1,687	651	14,372,249
		5	-			
2006年9月	イオン中部カンパニー静岡事業部が浜松市と締結		1,223	126	48	4,659,505
2007年3月	岡崎市	10	1,666	1,306	482	4,108,796
2006年7月	東浦町(※4)	7	1,593	717	267	4,890,998
2006年8月	イオン単独にで一宮市と締結	3	1,270	3,555	1,320	0
2006年8月	鈴鹿市	4	967	2,775	1,091	939,283
2008年11月	草津市	5	1,364	1,874	789	14,407,239
		4	1,274	726	288	116,632,746
2006年12月	山ノ内学区自主防災会	4	249	0	0	0
		5	384	2,347	905	0
		2	170	280	108	0
		3	159	570	219	0
		3	599	37	16	0
2006年9月	大阪府堺市	5	492	507	205	0
2006年9月	大阪府・泉南市・イオン (株)西日本カンパニー	5	1,512	1,061	424	1,450,757
		5	866	324	130	0
2003年1月	猪名川冠水地域指定のため、ジャスコと伊丹市の物資協定のみ	4	306	1,607	610	258,199
2006年10月	三田市	7	691	1,107	416	3,556,040
2006年8月	倉敷市	7	693	5,396	2,145	40,475,072
2007年4月	広島県安芸郡府中町	4	366	2,120	850	0
2009年9月	広島市祇園学区との自主防災活動相互応援協力協定	5	777	534	215	5,124,930
2006年8月	新居浜市とイオン (株)との三者契約	3	2,533	1,712	655	4,762,826
2007年9月	高知市	6	682	3,575	1,291	444,200
		6	1,370	673	271	0
2006年8月	直方市	4	1,854	1,508	606	6,872,218
2009年4月	筑紫野市 (**5)	6	1,658	557	223	0
2006年2月	中津市 (※6)	3	606	849	326	467,486
2006年10月	上益城郡嘉島町	3	284	985	394	0
2007年11月	宇城市 (*6)	2	429	288	114	0
2006年9月	宮崎市	6	1,854	1,525	605	9,093,881
2008年11月	都城市・ダイエーとの三者協定	3	1,410	568	225	0

 ^{※3} イオンモール(株)、イオンモールつがる柏およびイオン(株)ジャスコつがる柏店と災害時における相互協力
 ※4 「災害時における被災者に対する防災活動協力に関する協定書」
 ※5 「大規模災害時における被災者への救助活動協力に関する協定書」
 ※6 イオンモール(株)・イオン九州(株)で「災害時における被災者に対する防災活動協力に関する協定書」

各ショッピングセンターの2009年度データ ② (2010年2月20日現在)

					エネルギー				
エリア	店名		O₂ 2006年度比(%)	電気 使用量(千kWh)	前度比 (%)	自家発電	氷蓄熱	自然エネルギー その他設備	太陽光発電 設置年月
	イオンモールつがる柏	排出量 (t-CO ₂) 3,544	120%	5,718,568	139%	2006年2月 撤去		C V I BER IM	
東北エリア	イオンモール下田	2,901	30%	4,825,698	99%	2006年3月 撤去		風力発電	
	イオンモール秋田	4,208	36%	7,314,521	114%	2006年3月 撤去		134,7376 PE	
	イオンモール盛岡	4,742	92%	7,806,562	93%				
	イオンモール名取エアリ	7,610	-	10,472,479	98%	_	•		
	イオンモール太田	4,457	84%	8,000,369	87%	_			
	イオンモール高崎	5,501	343%	9,850,946	84%	_	•		
	イオンモール水戸内原	6,872	87%	12,272,809	95%	_	•		
	イオンモール川口グリーンシティ	2,596	94%	3,147,937	90%	_			
	イオンモール川口キャラ	6,477	127%	11,392,980	90%	_	•		
	イオンモール羽生	8,760		15,814,226	88%	_	•	太陽光発電	2007年11月
関東・甲信越エリア	イオンレイクタウンKAZE	7,487	_	13,417,145	_	_	•	太陽光発電	2008年10月
	イオンモールむさし村山ミュー	7,929	319%	14,158,206	92%	_	•	NAS電池	
	イオンモール日の出	6,313		11.319.983	87%	_	•	太陽光発電	2007年11月
	イオンモール大和	5,564	46%	8,044,823	97%	2009年2月 停止		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
	イオンモール富津	2,704	101%	4,863,182	93%	2006年3月撤去			
	イオンモール成田	4,549	31%	8,105,895	101%	2008年2月 撤去			
	イオンモール千葉ニュータウン	6,939	111%	10,225,942	98%	_			
北陸エリア	イオンモール高岡	5,120	85%	9,088,871	91%	_			
1011-77	イオンモール浜松志都呂	6,370	84%	11,421,882	93%	_		太陽光発電	2009年4月
	イオンモール岡崎	6,922	190%	10,688,053	176%	_		741,555.5	
中部エリア	イオンモール東浦	9,990	89%	6,897,672	99%	•			
1 11-27	イオンモール木曽川キリオ	9,335	125%	12,786,796	93%	_	•		
	イオンモール鈴鹿ベルシティ	5,500	107%	7,796,789	97%	_			
	イオンモール草津	5,165	_	9,216,777	_	_	•	太陽光発電	2008年11月
	イオンモール京都ハナ	6,009	116%	8.660.188	95%	_	•		
	京都ファミリー	2,395	93%	3,692,582	97%	_			
	イオンモール橿原アルル	9,460	136%	16,785,893	124%	_	•	太陽光発電	2009年4月
	ならファミリー	6,531	69%	10,818,631	94%	_			
	イオンモール藤井寺	1,782	98%	3,190,696	98%	_			
近畿エリア	イオンモール寝屋川グリーンシティ	2,274	96%	4,057,739	95%	_			
	イオンモール堺北花田プラウ	6,524	92%	11,565,469	93%	_	•		
	イオンモールりんくう泉南	7,102	87%	11,676,684	92%	_	•	太陽光発電	2009年5月
	イオンモール鶴見リーファ	5,448	308%	9,748,187	95%	_	•		
	イオンモール伊丹テラス	7,667	99%	13,758,825	97%	_	•	太陽光発電	2009年4月
	イオンモール神戸北	10,841	423%	10,567,563	93%	•			
	イオンモール倉敷	5,685	36%	10,185,749	100%	2006年8月 撤去			
中国エリア	イオンモール広島府中ソレイユ	8,752	88%	15,693,476	94%	_	•		
	イオンモール広島祇園	3,121	_	4,411,344	64%	_	•	太陽光発電	2009年4月
,.	イオンモール新居浜	4,164	29%	4,937,932	88%	2007年3月 撤去			
四国エリア	イオンモール高知	3,995	23%	7,136,731	94%	2007年3月 撤去		太陽光発電	2009年3月
	イオンモール福岡ルクル	10,159	134%	14,195,131	93%	_	•		
	イオンモール直方	6,603	91%	9,986,357	95%	_			
	イオンモール筑紫野	4,860	_	8,640,487	_	_		太陽光発電	2008年12月
	イオンモール三光	9,536	93%	3,418,505	97%	•			
九州エリア	イオンモール熊本クレア	5,931	96%	10,508,949	93%	-	•	太陽光発電	2005年10月
	イオンモール宇城バリュー	3,021	91%	5,417,833	93%	_		蓄熱	
	イオンモール宮崎	6,128	90%	9,523,031	99%	_			
	イオンモールMiELL (ミエル)都城駅前	1,987	_	3,553,437	_	_		太陽光発電	2008年12月

ж						廃棄物		コピー用紙使用量	
	水	浄化槽	除害設備	#hill = (1, -)	廃棄物	114.75 (27)	生ごみ処理機	廃棄物 計量システム	(枚)
使用量 (m³) 26,340	前度比 (%)	•		排出量 (kg) 302,388.80	前度比(%)	リサイクル率 (%) 66%	2007年7月 撤去	川里ノハノム	100,204
42,046	107%			809,262.00	114%	49%	一		109,820
40,434	110%	_		842,616.40	113%	89%	2007年10月 撤去	•	276,440
41,141	100%	_		620,572.00	99%	76%	2007年10万 旅云		143,500
73,791	98%	_	•	1,002,542.80	102%	70%		•	246,000
		_		822,514.20				-	
57,394	94%				91%	56%		•	193,325
66,215		_		1,227,233.30	135%	44%			198,000
103,260	91%	_	•	1,417,952.00	100%	72%	_	•	270,221
36,812	104%	•		897,280.00	87%	99%			88,620
81,166	87%	_		1,190,569.45	95%	49%	_	_	213,000
70,907	80%	•		1,242,216.49	96%	71%	_	•	282,000
70,270	_	_	-	1,301,415.95	199%	98%		-	236,000
53,360	90%	_	•	1,235,014.00	106%	72%		•	333,500
50,784	98%	_	•	869,568.45	101%	100%		•	237,000
61,520	101%	_	•	801,314.00	99%	79%	2003年12月 撤去	•	185,000
21,477	92%	_		491,819.60	99%	99%	2008年10月 撤去		47,600
82,899	112%	_		592,458.33	82%	73%	2009年6月 撤去		354,000
36,558	102%	_	•	759,180.00	89%	99%		•	207,307
72,178	90%	_		671,555.00	77%	65%	2007年10月 撤去	•	154,567
58,522	96%	_	•	792,171.00	91%	74%	_	•	202,000
74,130	128%	_		1,131,652.60	205%	41%	2008年11月 撤去	•	145,470
83,815	105%	_		1,063,243.00	95%	89%	2006年8月 撤去	•	140,020
102,469	96%	_		823,221.00	93%	100%	_	•	317,000
103,719	109%	•		1,725,732.70	94%	78%	2006年2月 撤去		144,000
85,329	_	_		1,151,447.00	329%	68%	_	•	218,000
58,613	95%	_		1,135,000.10	93%	72%	_		234,000
33,616	92%	_		1,035,854.00	93%	100%	_		114,900
170,316	129%	_		1,558,334.00	130%	100%	_	•	415,000
144,336	99%	_		1,711,385.15	174%	26%	_		174,000
23,667	97%	_		700,575.00	95%	48%	_		93,298
17,895	86%	_		423,903.00	93%	10%	_		119,000
75,366	91%	_		1,047,490.00	36%	32%	_		168,649
120,922	103%	_	•	1,327,832.99	101%	96%	_	•	157,500
65,759	104%	_		1,066,758.18	80%	95%	_	•	303,000
76,338	101%	_		2,318,877.00	99%	68%	_		232,000
73,707	100%	_	•	914,776.43	103%	100%	-	•	198,000
69,971	98%	_		1,296,055.00	110%	100%	2006年3月 撤去	•	161,062
84,709	90%	_		1,615,190.00	96%	100%	_	-	234,000
35,658	_	_		552,981.19	_	95%	_	•	229,500
41,194	72%	_		558,040.40	94%	65%	•	•	215,500
55,031	97%	_		1,192,838.00	90%	66%	•	•	153,500
107,416	94%	•		1,441,918.00	90%	99%		•	337,000
54,434	83%	•		1,249,448.50	114%	100%	_	•	149,500
82,483	- 03%	_	•	945,993.95	324%	77%	_	•	202,500
							2008年10日 信:		
9,293	63%	_		288,315.00	90%	79%	2008年10月 停止	•	96,550
136,460	96%	_	•	941,916.00	109%	66%	_	•	247,225
21,988	69%	_		289,340.00	87%	51%		_	170,940
67,055	102%	_	•	1,076,109.30	103%	100%	_	•	198,500
27,757	_	_	•	422,823.20	403%	77%		•	152,000

イオンモール サステナビリティレポート 『未来への報告書 2010』 の 内容についてのご質問・ご意見は下記へお寄せください。



イオンモール株式会社

CSR推進部

〒261-8539 千葉県千葉市美浜区中瀬1丁目5番地1 TEL 043-212-6476 FAX 043-212-6779 http://www.aeonmall.com







